

UHF ワイヤレスマイクロホンパッケージ
UHF シンセサイザートランスミッター
UHF シンセサイザーワイヤレスマイクロホン
UHF シンセサイザーダイバーシティチューナー

取扱説明書

UWP-D21/D22
UTX-B40
UTX-M40
UTX-P40
URX-P40
URX-P41D

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

商品の構成	3	設定メニュー.....	39
UWP-D21.....	3	システム構成例	43
UWP-D22.....	4	エラーメッセージ	44
単売モデル.....	4	故障かなと思ったら	45
特長	5	使用上のご注意	49
UWP-D21.....	5	使用・保管場所.....	49
UWP-D22.....	6	お手入れ.....	49
URX-P41D.....	6	主な仕様	50
各部の名称と働き	7	送信機 (UTX-B40/M40/P40).....	50
ボディパックトランスミッター		受信機 (URX-P40/P41D).....	51
(送信機: UTX-B40).....	7		
ハンドヘルドマイクロホン			
(送信機: UTX-M40).....	8		
プラグオントランスミッター			
(送信機: UTX-P40).....	10		
ポータブルダイバーシティーチューナー			
(受信機: URX-P40).....	11		
ポータブルダイバーシティーチューナー			
(受信機: URX-P41D).....	13		
電源	15		
電池を入れる.....	15		
USB 端子から電源供給する.....	17		
SMAD-P5 (別売) から電源供給する.....	18		
付属品の取り付け	18		
ボディパックトランスミッター (UTX-B40)			
への付属品取り付け.....	18		
ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40)			
への付属品取り付け.....	19		
プラグオントランスミッター (UTX-P40)			
への外部機器の取り付け.....	19		
ポータブルダイバーシティーチューナー			
(URX-P40/P41D) への付属品取り付け.....	20		
操作	21		
雑音が発生するときは.....	22		
受信機の設定	23		
メニュー構成と操作方法.....	23		
受信チャンネルを設定する.....	25		
グループ内の空きチャンネルを検索する			
(クリアチャンネルスキャン).....	26		
グループ内の使用チャンネルを検索する			
(アクティブチャンネルスキャン).....	27		
モニター音量を調節する.....	28		
設定メニュー.....	28		
UTILITY メニュー.....	32		
RX1/2 (チューナー 1/2) メニュー.....	34		
EXT.IN メニュー.....	36		
送信機の設定	37		
メニュー構成と操作方法.....	37		
送信チャンネルを設定する.....	38		

商品の構成

この取扱説明書は、ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-D21/D22 で共通です。各パッケージの商品構成は次のとおりです。

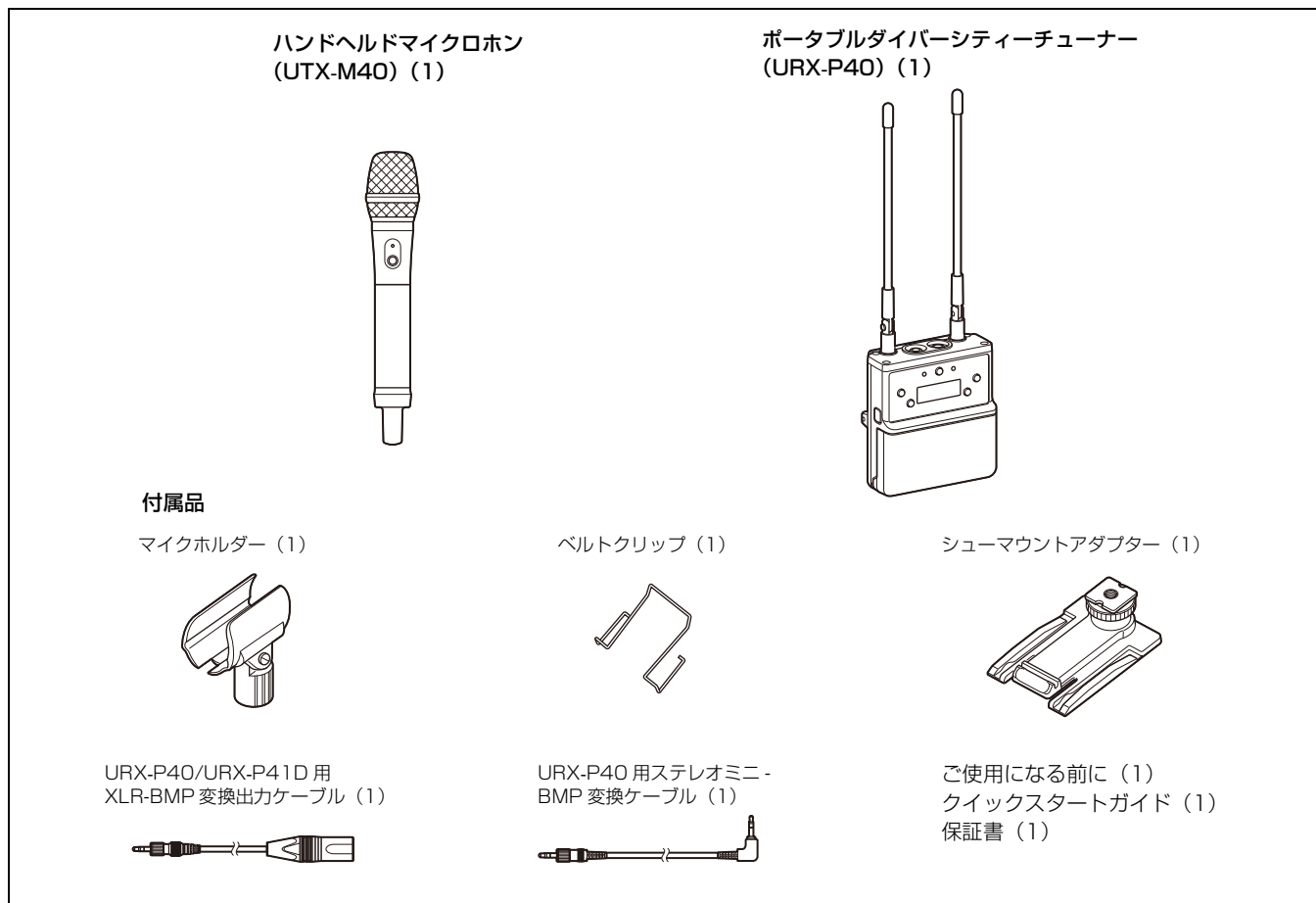
UWP-D21

ボディパケットランスミッター（送信機：UTX-B40）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P40）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。

ボディパケットランスミッター (UTX-B40) (1)	ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40) (1)	
付属品		
無指向性ラベリアマイクロホン (1)	ウインドスクリーン (1)	ホルダークリップ (1)
UTX-B40 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル (1)	シューマウントアダプター (1)	ベルトクリップ (2)
URX-P40/URX-P41D 用 XLR-BMP 変換出力ケーブル (1)	URX-P40 用ステレオミニ- BMP 変換ケーブル (1)	ご使用になる前に (1) クイックスタートガイド (1) 保証書 (1)

UWP-D22

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-M40）とポータブルダイバーシティチューナー（受信機：URX-P40）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。



単売モデル

各パッケージに含まれる送信機および受信機を単独で販売しています。それぞれの商品構成は次のとおりです。

UTX-B40

- ボディーバックトランスミッター (UTX-B40) (1)
- 無指向性ラベリアマイクロホン (1)
- ウィンドスクリーン (1)
- ホルダークリップ (1)
- UTX-B40 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル (1)
- ベルトクリップ (1)
- ご使用になる前に (1)
- 保証書 (1)

UTX-M40

- ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40) (1)
- マイクホルダー (1)
- ご使用になる前に (1)
- 保証書 (1)

UTX-P40

- プラグオントランスミッター (UTX-P40) (1)
- ソフトケース (1)
- ご使用になる前に (1)
- 保証書 (1)

URX-P40

- ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P40) (1)
- シューマウントアダプター (1)
- ベルトクリップ (1)
- URX-P40/URX-P41D 用 XLR-BMP 変換出力ケーブル (1)
- URX-P40 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブル (1)
- ご使用になる前に (1)
- 保証書 (1)

URX-P41D

- ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D) (1)
- シューマウントアダプター (1)

- ベルトクリップ (1)
- URX-P40/URX-P41D 用 XLR-BMP 変換出力ケーブル (2)
- URX-P41D 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブル (1)
- ご使用になる前に (1)
- 保証書 (1)

特長

ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-D21/D22 (UWP-D シリーズ) は、送信機 (ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) またはハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40)) と受信機 (ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P40)) の組み合わせです。2チャンネルポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D) は2波受信が可能な受信機です。小型カムコーダーやレンズ交換式デジタルカメラなどと組み合わせることで、ENG (Electronic News Gathering) や EFP (Electronic Field Production)、スポーツイベント、ウェディングなど、さまざまな用途に使用できます。

各パッケージおよび製品の特長は次のとおりです。

UWP-D21

- ソニーデジタルオーディオプロセッシング技術により高音質を実現
- 素早く簡単に安全なチャンネル設定が可能な NFC SYNC 機能
- 安定した信号受信を実現するトゥルーダイバーシティ受信方式
- 音量調整不要のオートゲインモード
- オフマイクで使用する際に音量を上げる +15 dB ゲインブーストモード
- ライン入力対応
- 受信機の2つの周波数を素早く切り換えられるチャンネルメモリー機能
- 送信機の周波数を受信機に伝送可能
- モニタリング用ヘッドホン出力端子
- 受信機をイヤーマニターとして使用するとき便利なモニターモード
- 多彩な設定が可能なミュート機能
- ソニー WL-800/UWP/UWP-D シリーズとの互換性を確保
- レシーバーの出力レベル調整機能搭載
- 屋外でも見やすい有機 EL ディスプレイ
- 外部電源供給用 USB 端子
- 別売のマルチインターフェースシューアダプター SMAD-P5 との組み合わせでデジタルオーディオインターフェースに対応*

* 本機能に対応するカメラの機器情報は、ソニーのウェブサイトをご確認ください。

UWP-D22

- ソニーデジタルオーディオプロセッシング技術により高音質を実現
- 素早く簡単に安全なチャンネル設定が可能な NFC SYNC 機能
- 安定した信号受信を実現するトゥルーダイバーシティー受信方式
- 別売のマイクロホンカプセルユニットと組み合わせてさまざまな用途に使用できる、マイクロホンカプセル交換式
- 音量調整不要のオートゲインモード
- オフマイクで使用する際に音量を上げる +15 dB ゲインブーストモード
- 受信機の2つの周波数を素早く切り換えられるチャンネルメモリー機能
- 送信機の周波数を受信機に伝送可能
- モニタリング用ヘッドホン出力端子
- 受信機をイヤーマニターとして使用するとき便利なモニタモード
- 多彩な設定が可能なミュート機能
- ソニー WL-800/UWP/UWP-D シリーズとの互換性を確保
- レシーバーの出力レベル調整機能搭載
- 屋外でも見やすい有機 EL ディスプレイ
- 外部電源供給用 USB 端子 (URX-P40 のみ)
- 別売のマルチインターフェースシュアアダプター SMAD-P5 との組み合わせでデジタルオーディオインターフェースに対応*

* 本機能に対応するカメラの機器情報は、ソニーのウェブサイトをご確認ください。

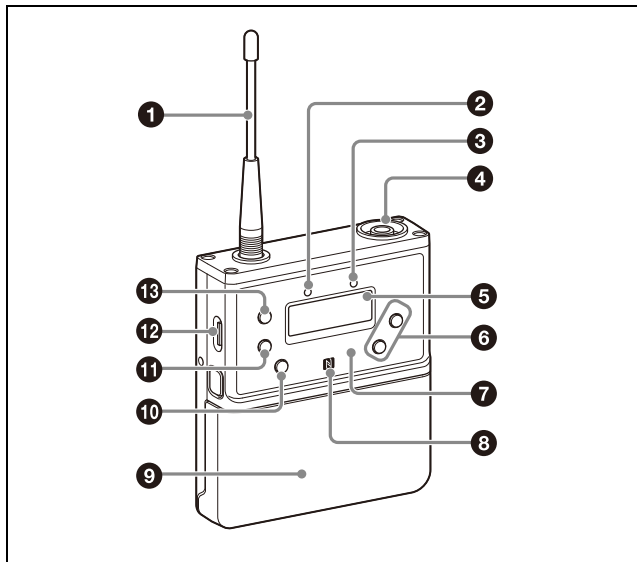
URX-P41D

- ソニーデジタルオーディオプロセッシング技術により高音質を実現
- 素早く簡単に安全なチャンネル設定が可能な NFC SYNC 機能
- ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティー受信方式 (1チャンネル動作時は、より安定性のあるトゥルーダイバーシティー受信方式)
- プラグインパワー方式の外付けマイクロホンやソニー製 BMP タイプのラベリアマイクロホンに対応した外部マイク入力端子
- 各入力信号を自在にミックスして出力できるミキシング機能を内蔵
- 受信機の2つの周波数を素早く切り換えられるチャンネルメモリー機能
- モニタリング用ヘッドホン出力端子
- 受信機をイヤーマニターとして使用するとき便利なモニタモード
- ソニー WL-800/UWP/UWP-D シリーズとの互換性を確保
- 赤外線通信機能を搭載した UWP-D シリーズとの組み合わせでもチャンネル設定が可能
- レシーバーの出力レベル調整機能搭載
- 広範囲で出力レベル設定が可能なアウトプットモードを搭載
- 屋外でも見やすい有機 EL ディスプレイ
- 外部電源供給用 USB 端子
- 別売のマルチインターフェースシュアアダプター SMAD-P5 との組み合わせでデジタルオーディオインターフェースに対応*

* 本機能に対応するカメラの機器情報は、ソニーのウェブサイトをご確認ください。

各部の名称と働き

ボディパケットランスミッター（送信機：UTX-B40）



① アンテナ

② POWER（電源）インジケータ

電池残量を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
消灯	電源 OFF

③ AUDIO（音声入力レベル）インジケータ

音声入力のレベルによって、以下のように点灯／消灯します。

点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（39 ページ）。

点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。

消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。

点滅（橙）：音声ミュート（消音）されています。

④ 音声入力端子（BMP タイプ）

付属のラベリアマイクロホンを接続します。または、付属の UTX-B40 用 XLR-BMP 変換入力ケーブルを使用して、オーディオミキサーなどのライン出力端子や、外部電源を必要としないマイクロホンを接続します。

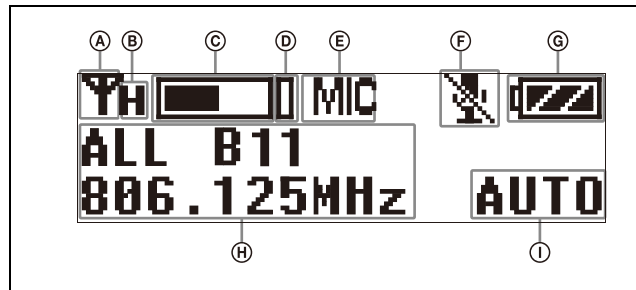
【注意】

- オーディオ入力レベルを「MIC」に設定して使用する際には、音声入力端子にはラベリアマイクロホンの電源用に電圧がかかります。また、音声入力端子は特殊な配線になっています。付属のラベリアマイクロホン以外の

機器を接続する場合は、必ず UTX-B40 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル（UWP-D21 にのみ付属）をご使用ください。

- 付属以外のラベリアマイクロホンを接続した場合、十分な性能を得られないことがあります。

⑤ ディスプレイ部



① RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

☒：送信しています。

—：RF 送信を停止しています。

② RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

- ◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（40 ページ）をご覧ください。

③ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

④ ピークインジケータ

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

⑤ 入力レベル表示

入力レベル状態を表示します。

MIC：マイク入力です。

LINE：ライン入力です。

⑥ 消音状態の表示

消音機能が ON のときにアイコンを表示します。

- ◆ 消音機能について詳しくは、「消音機能の動作を設定する（MUTE SETTING）（UTX-B40/P40 のみ）」（40 ページ）をご覧ください。

⑦ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「USB」と表示されます。

- ◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（17 ページ）をご覧ください。

⑧ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、+ または - ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」(39 ページ)をご覧ください。

① ゲインモード表示

ゲインモードの設定状態を表示します。

◆ 詳しくは「音声のゲインを設定する (GAIN MODE)」(39 ページ)をご覧ください。

⑥ +または-ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

⑦ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

⑧ N マーク

受信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信します。また、送信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信機に通知します。

⑨ 電池ホルダー

単3形電池(アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池)2本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(15 ページ)をご覧ください。

⑩ MUTE ボタン

消音機能の ON/OFF 操作に使用します。消音機能の ON/OFF 操作の方法は設定メニューで変更できます。

◆ 消音機能の ON/OFF の切り換え方法について詳しくは、「消音機能の動作を設定する (MUTE SETTING) (UTX-B40/P40 のみ)」(40 ページ)をご覧ください。

⑪ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります(送信停止モード)。

⑫ USB 端子 (USB Type-C®)

市販の USB ポータブル電源を接続します。

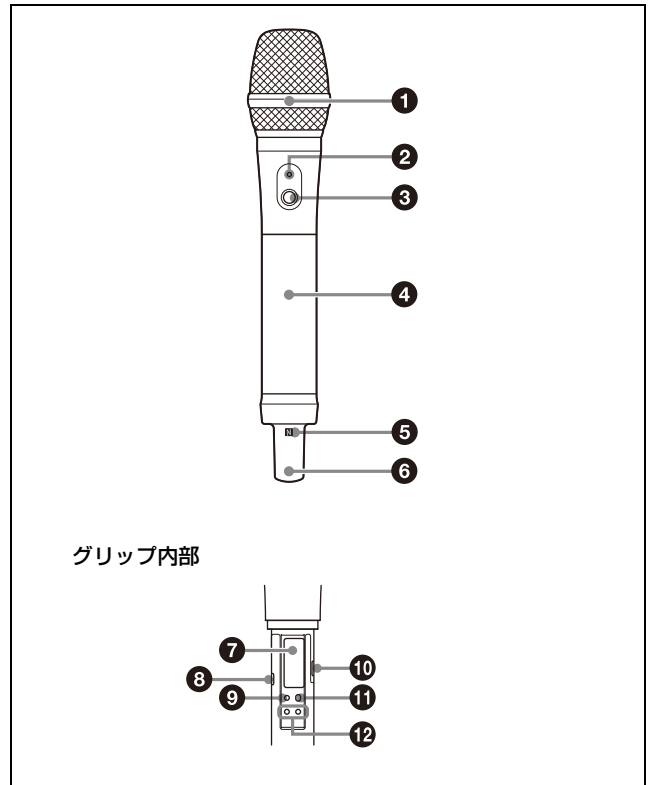
本機の電源が ON のときに USB ポータブル電源を接続すると、自動的に USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。

⑬ POWER (電源) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを1秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し

ハンドヘルドマイクロホン (送信機 : UTX-M40)



① マイクロホンユニット

標準装備のマイクロホンユニットのほか、直径 31.3 mm、ピッチ 1.0 mm の取り付け寸法のマイクロホンユニットを取り付けることができます。

◆ マイクロホンユニットの取り付けおよび取り外し方法について詳しくは、「マイクロホンユニットを交換する」(19 ページ)をご覧ください。

② POWER (電源) インジケータ

電池残量、および音声のミュートイング(消音)状態を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯 (緑)	電池残量が充分
点滅 (緑)	電池がほとんど消耗している
消灯	電源 OFF
点滅 (橙)	音声をミュートイング(消音)中

③ POWER/MUTE (電源/消音) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミュート機能 (消音) 機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し
ミュート ON	ボタンを押す
ミュート OFF	

設定メニューから、POWER/MUTE ボタンでの電源操作を無効にしたり、消音機能の ON/OFF 操作の方法を変更できます。

◆ 詳しくは、「消音機能の動作を設定する (POWER/MUTE) (UTX-M40 のみ)」(41 ページ) をご覧ください。

④ 電池ホルダー

単 3 形電池 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) 2 本を入れます。

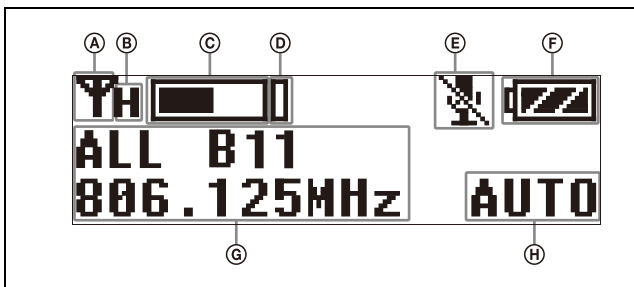
◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(15 ページ) をご覧ください。

⑤ N マーク

受信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信します。また、送信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信機に通知します。

⑥ アンテナ部

⑦ ディスプレイ部



⑧ RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

- ☎ : 送信しています。
- : RF 送信を停止しています。

⑨ RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する (RF POWER)」(40 ページ) をご覧ください。

⑩ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

⑪ ピークインジケータ

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

⑫ 消音状態の表示

消音機能が ON のときにアイコンを表示します。

◆ 消音機能について詳しくは、「消音機能の動作を設定する (POWER/MUTE) (UTX-M40 のみ)」(41 ページ) をご覧ください。

⑬ 電池残量表示

電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」(17 ページ) をご覧ください。

⑭ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、+ または - ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」(39 ページ) をご覧ください。

⑮ ゲインモード表示

ゲインモードの設定状態を表示します。

◆ 詳しくは「音声のゲインを設定する (GAIN MODE)」(39 ページ) をご覧ください。

⑯ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

⑰ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります (送信停止モード)。

⑱ USB 端子 (USB Type-C)

サービス専用です。

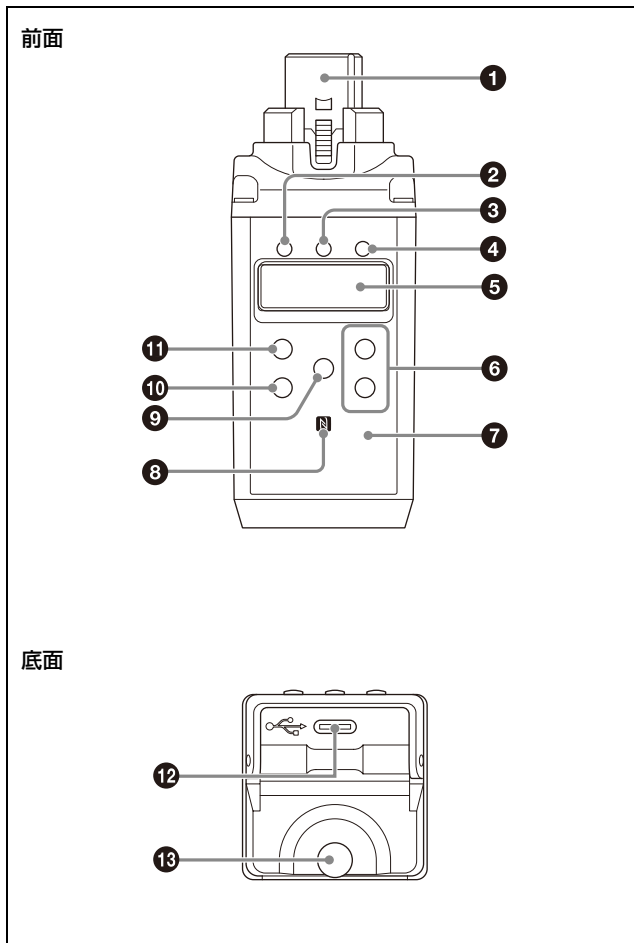
⑲ POWER (電源) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

⑳ + または - ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

プラグオントランスミッター（送信機：UTX-P40）



① 音声入力端子（XLR タイプ）

マイクロホン、または、オーディオミキサーなどのライン出力端子を接続します。

② +48V（+48 V 電源）インジケータ

入力レベルが MIC 入力に設定されていて、接続されているマイクロホンに電源を供給しているときに点灯します。

③ POWER（電源）インジケータ

電池残量を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
消灯	電源 OFF

④ AUDIO（音声入力レベル）インジケータ

音声入力のレベルによって、以下のように点灯／消灯します。

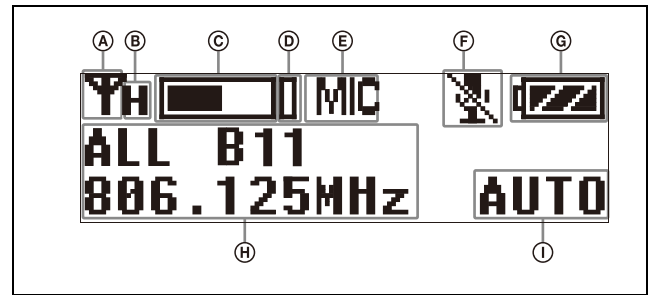
点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（39 ページ）。

点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。

消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。

点滅（橙）：音声ミュート（消音）されています。

⑤ ディスプレイ部



⑤A RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

☑ : 送信しています。

— : RF 送信を停止しています。

⑤B RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（40 ページ）をご覧ください。

⑤C オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

⑤D ピークインジケータ

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

⑤E 入力レベル表示

入力レベル状態を表示します。

MIC : マイク入力です。

LINE : ライン入力です。

⑤F 消音状態の表示

消音機能が ON のときにアイコンを表示します。

◆ 消音機能について詳しくは、「消音機能の動作を設定する（MUTE SETTING）（UTX-B40/P40 のみ）」（40 ページ）をご覧ください。

⑤G 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「USB」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（17 ページ）をご覧ください。

⑤H メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、+ または - ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（39 ページ）をご覧ください。

⑤I ゲインモード表示

ゲインモードの設定状態を表示します。

◆ 詳しくは「音声のゲインを設定する（GAIN MODE）」（39 ページ）をご覧ください。

⑥ +または-ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

⑦ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

⑧ N マーク

受信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信します。また、送信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを受信機に通知します。

⑨ MUTE ボタン

消音機能の ON/OFF 操作に使用します。消音機能の ON/OFF 操作の方法は設定メニューで変更できます。

◆ 消音機能の ON/OFF の切り換え方法について詳しくは、「消音機能の動作を設定する (MUTE SETTING) (UTX-B40/P40 のみ)」 (40 ページ) をご覧ください。

⑩ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります (送信停止モード)。

⑪ POWER (電源) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し

⑫ USB 端子 (USB Type-C)

市販の USB ポータブル電源を接続します。

本機の電源が ON のときに USB ポータブル電源を接続すると、自動的に USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。

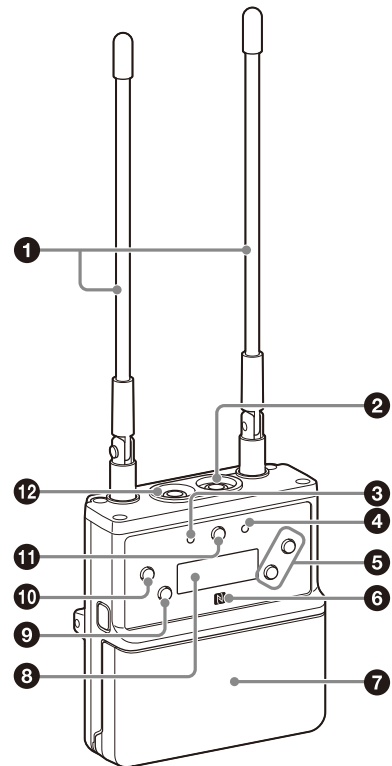
⑬ 電池ホルダー

単 3 形電池 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) 2 本を入れます。

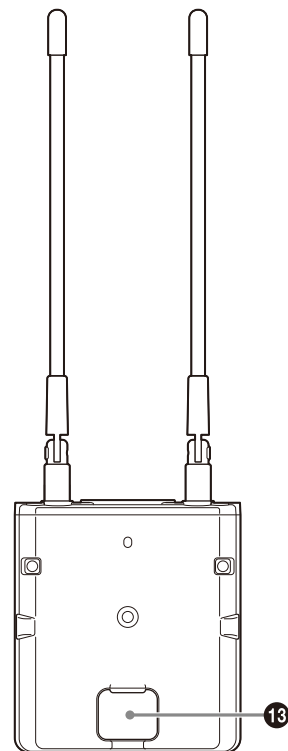
◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」 (15 ページ) をご覧ください。

ポータブルダイバーシティチューナー (受信機: URX-P40)

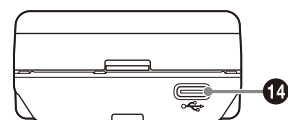
前面



背面



底面



① アンテナ

② PHONES (モニター) 端子 (Φ3.5 mm ステレオミニジャック)

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

ご注意

モノラルミニジャックのヘッドホンはこの端子に接続しないでください。ヘッドホン出力がショートし、音声がひずみます。

③ POWER (電源) インジケーター

電池残量を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯 (緑)	電池残量が充分
点滅 (緑)	電池がほとんど消耗している
消灯	電源 OFF

④ RF (高周波入力) インジケーター

入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯 (緑) : 入力レベルは 25 dB μ 以上

点灯 (赤) : 入力レベルは 15 ~ 25 dB μ

消灯 : 入力レベルは 15 dB μ 以下

* 0 dB μ = 1 μ V_{EMF}

⑤ +または-ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

⑥ Nマーク

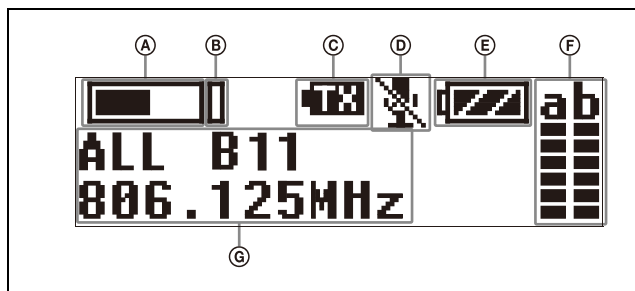
設定した周波数およびコンパnderモードを送信機に送信します。また、送信機に設定されている周波数およびコンパnderモードを検知します。

⑦ 電池ホルダー

単3形電池 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) 2本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(15ページ)をご覧ください。

⑧ ディスプレイ部



⑨ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

⑩ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

⑪ 送信機の電池警告表示

受信している送信機の電池残量がほとんど消耗しているときにアイコンを表示します。

ご注意

- 受信レベルが低いときは、アイコンが表示されないことがあります。
- この機能は送信機が UTX-B40/M40/P40 のときのみ有効です。

⑫ 送信機の消音状態の表示

受信している送信機の消音機能が ON のときにアイコンを表示します。

ご注意

- 受信レベルが低いときは、アイコンが表示されないことがあります。
- この機能は送信機が UTX-B40/M40/P40 のときのみ有効です。

⑬ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「USB」と表示されます。SMAD-P5 (別売) から電源供給されている場合は「MI」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」(17ページ)をご覧ください。

⑭ RF (高周波入力) レベルメーター

RF 入力レベルを表示します。入力レベルによって点灯する目盛りの数が変わります。

6 目盛りが点灯 : 60 dB μ 以上

5 目盛りが点灯 : 50 ~ 60 dB μ

4 目盛りが点灯 : 40 ~ 50 dB μ

3 目盛りが点灯 : 30 ~ 40 dB μ

2 目盛りが点灯 : 20 ~ 30 dB μ

1 目盛りが点灯 : 10 ~ 20 dB μ

点灯なし : 10 dB μ 未満

⑮ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、+または-ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」(28ページ)をご覧ください。

⑯ NFC SYNC (NFC 通信) ボタン

チャンネルスキャン、および送信機との NFC 通信を行うボタンです。

◆ 詳しくは、「操作」(21ページ)をご覧ください。

⑩ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります (送信停止モード)。

⑪ POWER (電源) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し

⑫ OUTPUT (音声出力) 端子 (Φ3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック、平衡出力)

付属の URX-P40/URX-P41D 用 XLR-BMP 変換出力ケーブルまたは URX-P40 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート (BMP) プラグをチューナーに、L 型 (ステレオミニ) プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

ご注意

- ・ マイクロホン用外部電源 (MIC+48V) などの電圧を加えないでください。故障の原因になります。
- ・ URX-P40 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルでプラグインパワーのマイク端子への接続は可能です。
- ・ SMAD-P5 (別売) を接続した状態で、カムコーダーのマイクロホン入力端子に URX-P40 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルで接続すると、ノイズが発生することがあります。その場合は付属のシューマウントアダプターを使用してください。
- ・ URX-P40 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルで接続する場合は、不平衡での出力となります。

⑬ 外部接続用端子

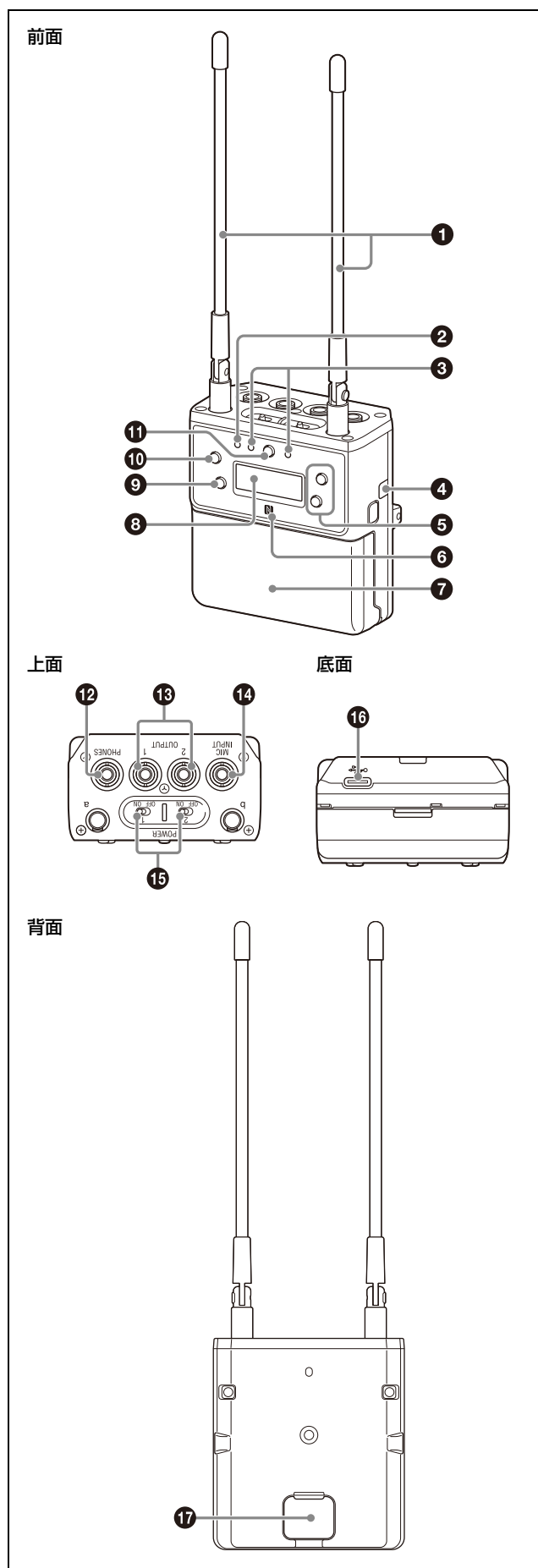
本機との取り付け方法は SMAD-P5 (別売) の取扱説明書を参照してください。

⑭ USB 端子 (USB Type-C)

市販の USB ポータブル電源を接続します。

本機の電源が ON のときは、USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。

ポータブルダイバーシティチューナー (受信機: URX-P41D)



① アンテナ

② POWER (電源) インジケーター

電池残量を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯 (緑)	電池残量が充分
点滅 (緑)	電池がほとんど消耗している
消灯	電源 OFF

③ RF (高周波入力) インジケーター

チューナー 1 とチューナー 2 それぞれの高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯 (緑)：入力レベルは 25 dB μ 以上

点灯 (赤)：入力レベルは 15 ~ 25 dB μ

消灯：入力レベルは 15 dB μ 未満

* 0 dB μ = 1 μ V_{EMF}

④ 赤外線送信ポート

設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信するためのポートです。

⑤ +または-ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

⑥ N マーク

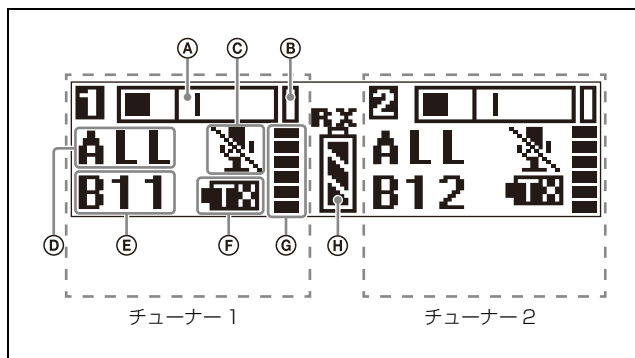
設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信します。また、送信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを検知します。

⑦ 電池ホルダー

単 3 形電池 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) 2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(15 ページ)をご覧ください。

⑧ ディスプレイ部



⑨ オーディオ入力レベルメーター

受信したオーディオ信号のレベルを表示します。

⑩ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

㉑ 送信機の消音状態の表示

受信している送信機の消音機能が ON のときにアイコンを表示します。

ご注意

- 受信レベルが低いときは、アイコンが表示されないことがあります。
- この機能は送信機が UTX-B40/M40/P40 のときのみに有効です。

㉒ グループ表示

設定されている受信グループ名を表示します。

㉓ チャンネル表示

設定されている受信チャンネル名を表示します。

㉔ 送信機の電池警告表示

受信している送信機の電池残量がほとんど消耗しているときにアイコンを表示します。

ご注意

- 受信レベルが低いときは、アイコンが表示されないことがあります。
- この機能は送信機が UTX-B40/M40/P40 のときのみに有効です。

㉕ RF (高周波入力) レベルメーター

RF 入力レベルを表示します。入力レベルによって点灯する目盛りの数が変わります。

6 目盛りが点灯：60 dB μ 以上

5 目盛りが点灯：50 ~ 60 dB μ

4 目盛りが点灯：40 ~ 50 dB μ

3 目盛りが点灯：30 ~ 40 dB μ

2 目盛りが点灯：20 ~ 30 dB μ

1 目盛りが点灯：10 ~ 20 dB μ

点灯なし：10 dB μ 未満

㉖ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「USB」と表示されます。SMAD-P5 (別売) から電源供給されている場合は「MI」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」(17 ページ)をご覧ください。

㉗ NFC SYNC (NFC 通信) ボタン

チャンネルスキャン、および送信機との NFC 通信または、IR SYNC を行うボタンです。

◆ 詳しくは、「操作」(21 ページ)をご覧ください。

㉘ SET (セット) ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。

⑪ MENU (メニュー) ボタン

ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り換えます。

⑫ PHONES (モニター) 端子 (Φ3.5 mm ステレオミニジャック)

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

で注意

モノラルミニジャックのヘッドホンはこの端子に接続しないでください。ヘッドホン出力がショートし、音声がひずみます。

⑬ OUTPUT 1/2 (音声出力 1/2) 端子 (Φ3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック、平衡出力)

付属の URX-P40/URX-P41D 用 XLR-BMP 変換出力ケーブルまたは URX-P41D 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。

接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート (BMP) プラグをチューナーに、L 型 (ステレオミニ) プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

で注意

- マイクロホン用外部電源 (MIC+48V) などの電圧を加えないでください。故障の原因になります。
- URX-P41D 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルでプラグインパワーのマイク端子への接続は可能です。
- SMAD-P5 (別売) を接続した状態で、カムコーダーのマイクロホン入力端子に URX-P41D 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルで接続すると、ノイズが発生することがあります。その場合は付属のシューマウントアダプターを使用してください。
- URX-P41D 用ステレオミニ-BMP 変換ケーブルで接続する場合は、不平衡での出力となります。

⑭ MIC INPUT (音声入力) 端子 (Φ3.5 mm ステレオミニジャック)

プラグインパワー方式の外付けマイクロホンや、ソニー製の BMP タイプのラベリアマイクロホンを接続します。

⑮ POWER (電源) スイッチ

チューナー 1 とチューナー 2 の電源を個別に ON/OFF します。

⑯ USB 端子 (USB Type-C)

市販の USB ポータブル電源を接続します。

本機の電源が ON のときは、USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。

⑰ 外部接続用端子

本機との取り付け方法は SMAD-P5 (別売) の取扱説明書を参照してください。

電源

ここでは各機器の電源について説明しています。

ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) およびプラグオントランスミッター (UTX-P40)

単 3 形電池 2 本 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) または USB 端子からの電源供給で動作します。単 3 形電池と USB 端子から同時に電源供給されている場合、USB 端子からの電源供給が優先されます。各機器の電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40)

単 3 形電池 2 本 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池) で動作します。電池の入れかたと電池の残量表示について、下記の項目で説明しています。

ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P40/P41D)

単 3 形電池 2 本 (アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池、リチウム乾電池)、USB 端子からの電源供給、または外部接続用端子からの電源供給で動作します。単 3 形電池からと、USB 端子または外部接続用端子から同時に電源供給されている場合は、優先的に使用する電源を POWER SOURCE (外部電源選択) 機能で設定することができます。工場出荷時は、本体に取り付けた単 3 形電池を優先的に使用するよう設定されています。電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

- ◆ POWER SOURCE 機能の設定について詳しくは、「優先的に使用する電源を選択する (POWER SOURCE)」(URX-P40 : 31 ページ、URX-P41D : 33 ページ) をご覧ください。

で注意

- マンガン乾電池を使用すると、十分な性能が得られませんので使用しないでください。
- 単 3 形リチウムイオン充電電池は使用できません。

電池を入れる

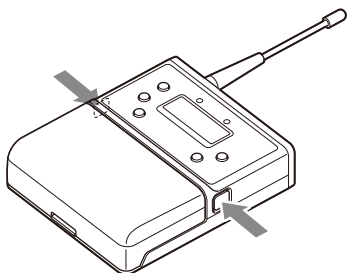
で注意

- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせると使用しないでください。
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

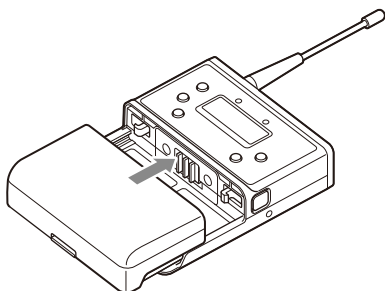
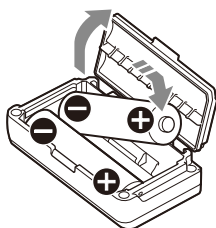
ボディーパケットランスマッター (UTX-B40) / ポータブルダイバーシ ティーチューナー (URX-P40/P41D)

下記手順はボディーパケットランスマッター (UTX-B40) のイラストを使って説明していますが、電池の入れかたはポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40/P41D) も同様です。

- 1 UTX-B40/URX-P40 の場合は、POWER (電源) ボタンを長押しして、電源を切る。URX-P41D の場合は 2 つの POWER (電源) スイッチを操作し、電源を切る。
- 2 左右の側面にあるボタンを押しながら、電池ホルダーを引き出す。



- 3 電池ホルダーのカバーを開けて、新しい単 3 形電池 2 本の ⊕ と ⊖ を確認して入れ、電池ホルダーを戻す。



電池ホルダーが本体にしっかりロックされていることを確認してください。

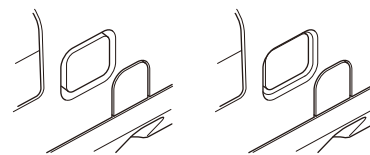
ご注意

電池ホルダーを取り付けるときは、電池ホルダーが左右どちらも本体にしっかりロックされていることを確認してください。

左右どちらかのロックボタンが沈んでいる場合、電池ホルダーはロックされていません。ロックボタンが機器の側面と平行な位置になるように電池ホルダーを押し込んでください。

ロックされている状態

ロックされていない状態



ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40)

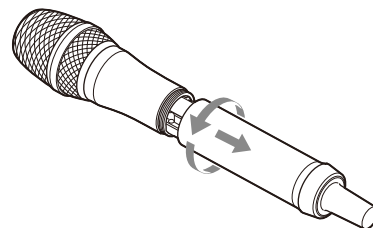
- 1 POWER/MUTE (電源/消音) ボタンまたは POWER (電源) ボタンを長押しして、電源を切る。

ご注意

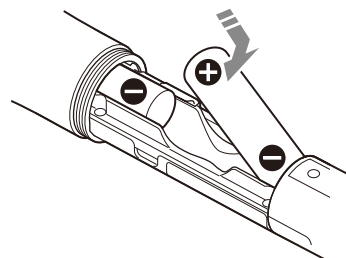
どちらのボタンで電源 OFF 操作を行うかは、POWER/MUTE の設定によって異なります。

◆ 詳しくは、「消音機能の動作を設定する (POWER/MUTE) (UTX-M40 のみ)」 (41 ページ) をご覧ください。

- 2 グリップを矢印の方向に回して引き下げ、電池ホルダーが見える状態にする。



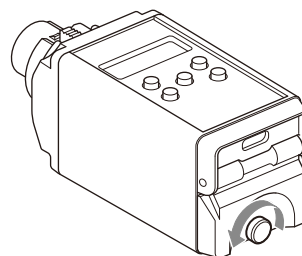
- 3 新しい単 3 形電池 2 本の ⊕ と ⊖ を確認して入れる。



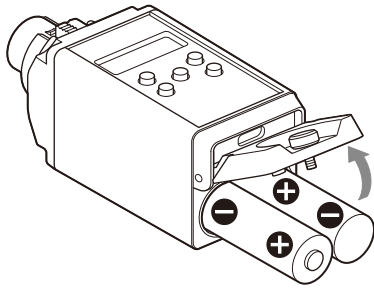
- 4 グリップを閉じ、手順 2 と逆方向に回して固定する。

プラグオンランスマッター (UTX-P40)

- 1 POWER (電源) ボタンを長押しして、電源を切る。
- 2 電池ホルダーのつまみを反時計回りに回して、カバーを開ける。



3 新しい単3形電池2本の⊕と⊖を確認して入れる。








4 電池ホルダーのカバーを閉じ、つまみを時計回りに回して固定する。

つまみを固定する際、カバーがしっかり閉まっていることを確認してください。

電池残量の表示

電源を ON にすると、ディスプレイ部に本機の電池残量が表示されます。

下記の表の5のように表示が点滅しはじめたら、直ちに電池を2本とも新しいものと交換してください。新しいアルカリ乾電池を使用する場合は、記載されている使用推奨期限を確認のうえ使用してください。

電池残量表示	電池の状態
1 点灯 	良好
2 点灯 	残量約 70% 以下
3 点灯 	残量約 40% 以下
4 点灯 	残量約 20% 以下
5 点滅 	ほとんど消耗している

ご注意

- BATTERY TYPE 機能で TYPE1 を選択した場合、新品の特定のメーカーのアルカリ単3形乾電池を基準に電池の残量表示をします。その他の種類の電池や他社製の乾電池、新しくない乾電池などでは正しく残量表示ができません。アルカリ単3形乾電池以外の電池をご使用の場合には、BATTERY TYPE 機能で電池の種類を選択してください。
- 充電式ニッケル水素電池は充放電回数を重ねると、電池の性能が低下して残量表示が合わなくなる場合があります。
- 長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめします。

- 電源を切った状態でも電池は少しずつ消費していきます。本機を長期間使わないときは、電池を取り出してください。

- ◆ BATTERY TYPE 機能の設定について詳しくは、「電池の種類を設定する (BATTERY TYPE)」(URX-P40 : 31 ページ、URX-P41D : 33 ページ、UTX-B40/M40/P40 : 41 ページ) をご覧ください。

電池についてのご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず2本とも新しい電池と交換してください。
- 新しい電池と使用した電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 本機では電池の充電はできません。
- 本機を長時間使わないときは、電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

USB 端子から電源供給する

送信機 (UTX-B40/P40)、受信機 (URX-P40/P41D) は、USB 端子に市販の USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して動作させることができます。USB 出力タイプの AC アダプターやポータブル電源を接続して給電する場合は、以下の条件のものを使用してください。

- 出力端子形状 : USB Type-C
- 定格電圧 : 5 V
- 出力電流 : 200 mA 以上

USB 端子から電源が供給されている場合は、ディスプレイ部に「USB」アイコンが表示されます。

ご注意

- ハンドヘルドマイクロホン UTX-M40 は、USB 端子から電源供給することはできません。
- 接続する AC アダプターやポータブル電源によっては、音声にノイズが発生することがあります。その場合は、本機やラベリアマイクロホンを AC アダプターやポータブル電源から離すなど、位置を変更することでノイズが軽減されます。
- USB Type-C と他の形状との変換コネクターや、USB Type-C 規格に準拠していないケーブルを使用した場合、ノイズが発生したり、電源が正しく入らなかったりする可能性があります。必ず USB Type-C 規格に準拠したケーブルを使用してください。

SMAD-P5（別売）から電源供給する

ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P40/P41D）は、外部接続用端子にSMAD-P5（別売）を接続して、ソニー製のビデオカメラレコーダーやレンズ交換式デジタルカメラなどのマルチインターフェースシューを搭載したカメラに取り付ける事で、動作させることができます。さらに、受信機の電源とカメラを連動させることができます。本機とSMAD-P5（別売）を接続し、マルチインターフェースシューを搭載したカメラに取り付けることで、ケーブル不要で受信機からカメラへのオーディオ信号の伝送ができます。また、デジタルオーディオ入力に対応したマルチインターフェースシューを搭載したカメラと接続することで、受信機から出力されるデジタルオーディオ信号を直接カメラで記録することができます。

- ◆ カメラへの取り付け方法、受信機の電源とカメラとの連動方法、オーディオ信号の切替方法については、SMAD-P5（別売）の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

一部のカメラで使用する際は、SMAD-P5（別売）への電源供給機能およびオン/オフ連動機能は動作保証していません。

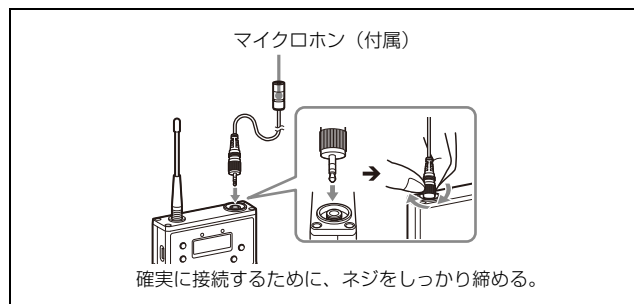
- ◆ 詳しくは、SMAD-P5（別売）の取扱説明書をご覧ください。カメラの機器情報については、ソニーのウェブサイトをご確認ください。

付属品の取り付け

ここでは各機器への付属品の取り付けかたについて説明しています。

ボディーパケットランスマッター（UTX-B40）への付属品取り付け

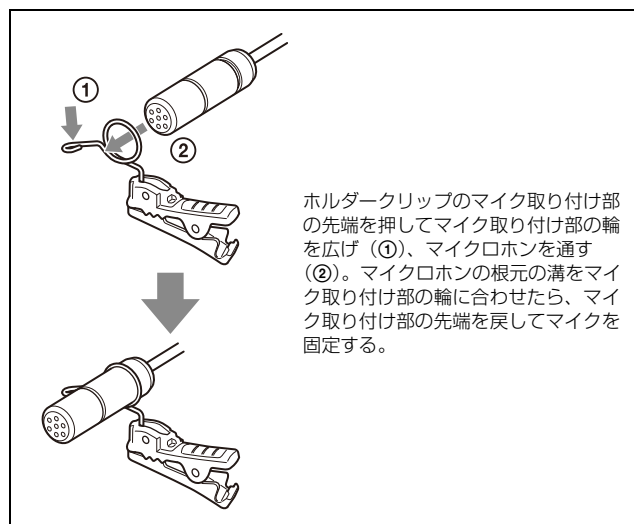
マイクロホンを接続する



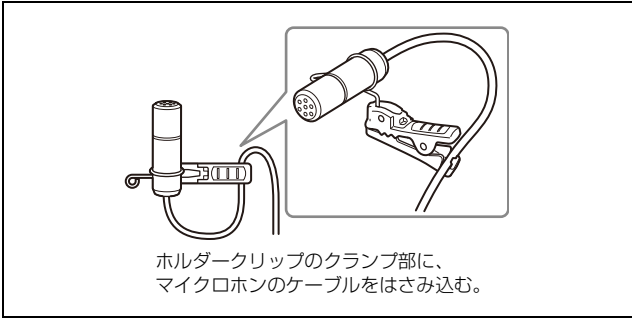
ご注意

マイクロホンの接続/取り外しは、トランスミッターの電源を切ってから行ってください。

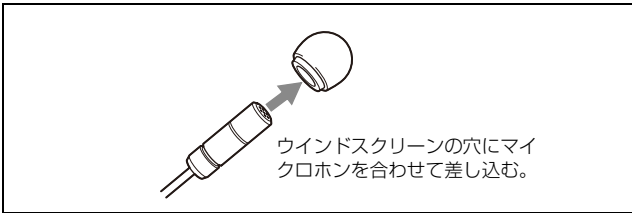
マイクロホンにホルダークリップを取り付ける



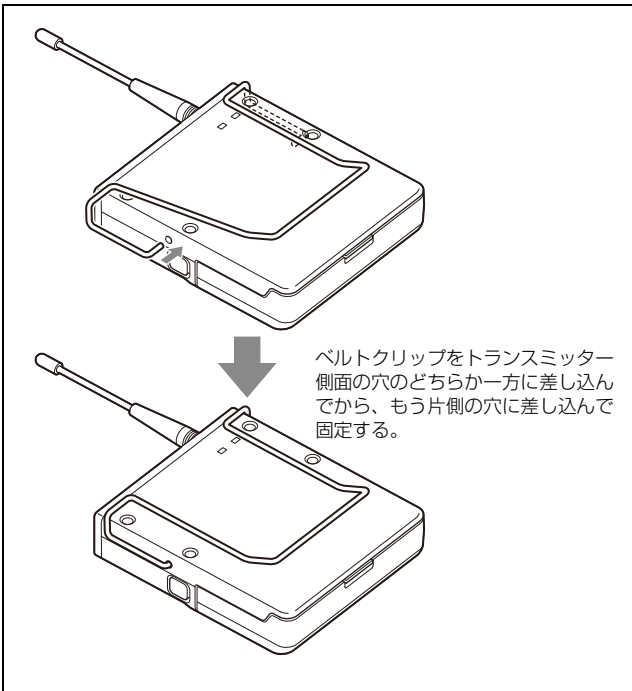
マイクロホンのケーブルをまとめるには



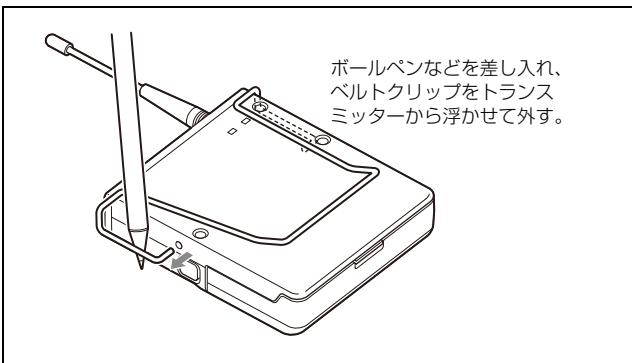
マイクロホンにウインドスクリーンを取り付ける



ベルトクリップを取り付ける

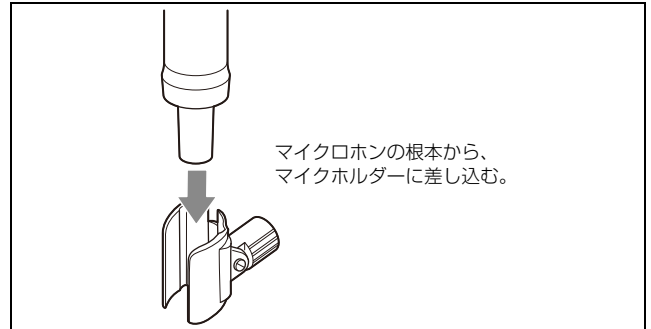


ベルトクリップを外すには



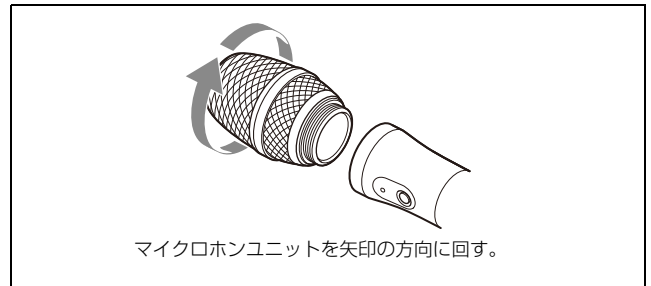
ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40) への付属品取り付け

マイクホルダーを取り付ける



マイクロホンユニットを交換する

マイクロホンユニットを取り外す

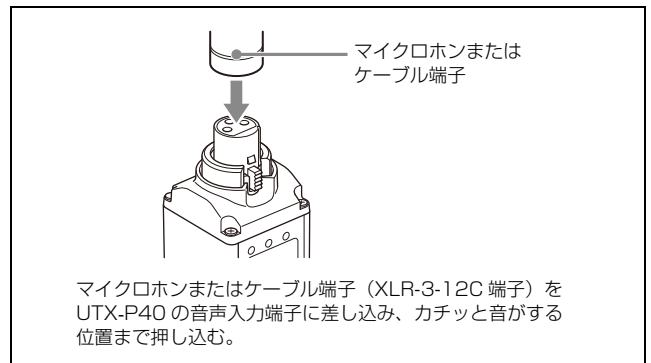


マイクロホンユニットを取り付ける

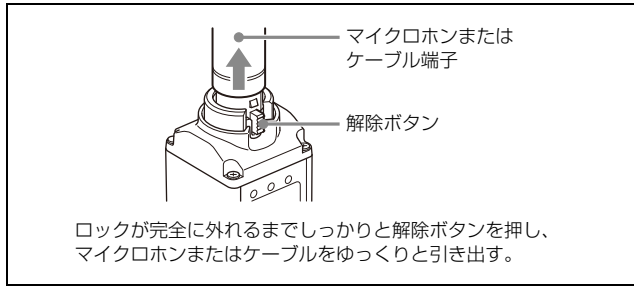
マイクロホンユニットを取り外し時と反対に回して、しっかりマイクロホン本体に取り付けます。

プラグオントランスミッター (UTX-P40) への外部機器の取り付け

マイクロホンまたはケーブル端子を取り付ける

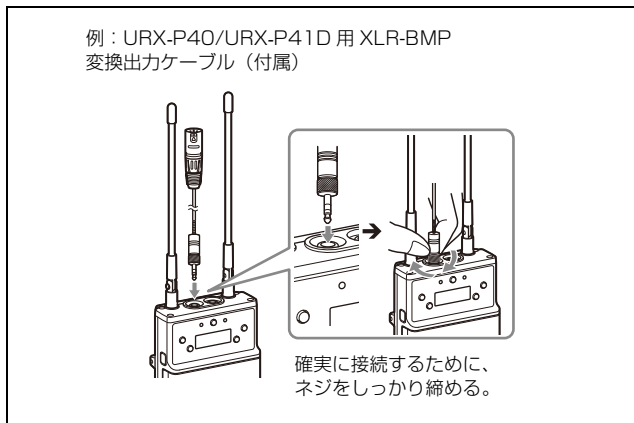


マイクロホンまたはケーブル端子を取り外す



ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40/P41D) への付属品取り付け

OUTPUT 端子に付属の変換ケーブルを接続する



ベルトクリップを取り付ける

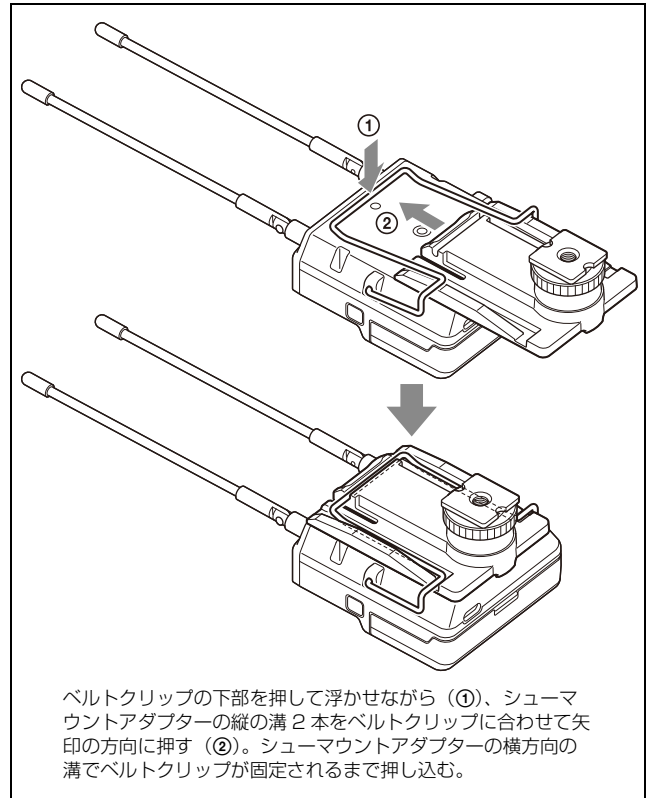
◆「ベルトクリップを取り付ける」(19 ページ) を参照してください。

シューマウントアダプターを取り付ける

あらかじめベルトクリップを取り付けておいてください (19 ページ)。

ご注意

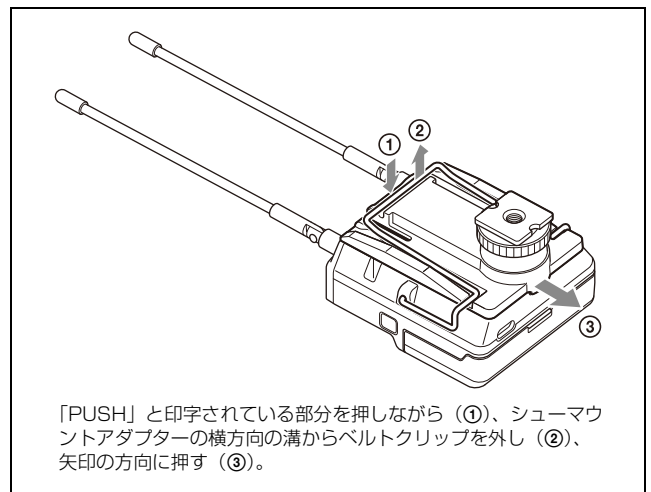
シューマウントアダプターを取り付ける場合は、ベルトクリップの向きを上下逆さにして取り付けてください。



ご注意

カムコーダーに取り付ける場合は、URX-P40/URX-P41D のアンテナが画面に映り込むのを防ぐため、アンテナを折り曲げて使用してください。

シューマウントアダプターを取り外すには



操作

この操作の対象：すべての送信機（UTX-B40/M40/P40）およびポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P40）

1 必要に応じて、受信機の接続をする。

- ◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」（43 ページ）をご覧ください。

2 受信機の POWER ボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

ご注意

電源を入れるとノイズが発生する場合がありますので、受信機に接続した機器の音声入力レベルを絞ってから電源を入れてください。

3 受信機の NFC SYNC ボタンを 3 秒以上長押しする。

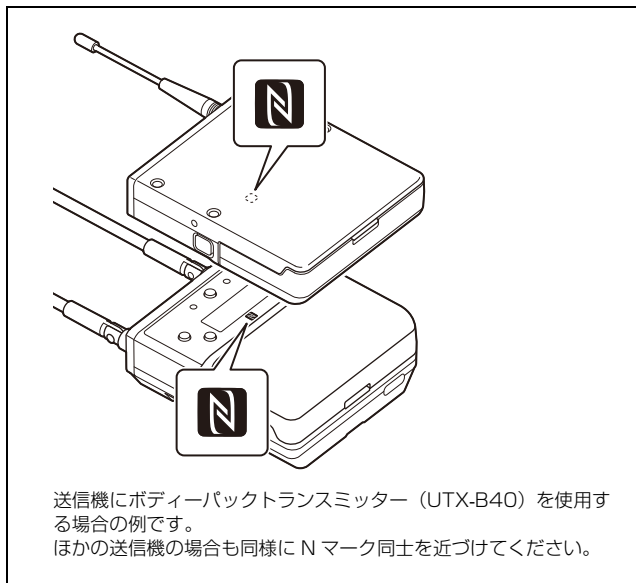
クリアチャンネルスキャンがスタートし、設定されているチャンネルグループ内で空いているチャンネルを探します。

クリアチャンネルスキャンが完了すると、雑音や妨害電波の影響が最も少ないチャンネルに設定されます。チャンネルが設定されると、自動的に NFC 送信を開始します。

- ◆ グループの設定方法について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」（25 ページ）をご覧ください。

4 受信機と送信機の N マーク同士を近づける（目安は 5 mm 程度）。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分かつ電源 OFF の状態にしてください。



受信機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信チャンネルが設定されます。

送信機と受信機のディスプレイに COMPLETE と表示され、送信機が振動すると設定は完了です。

送信機が電源 OFF の状態で NFC 通信を行った場合には、送信機は自動的に電源 ON し、送信状態になります。

ご注意

- NFC 通信は、約 20 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから 20 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。20 秒を超えてしまった場合は、受信機の SYNC RX->TX メニューから再度 NFC 送信ができます。
- NFC を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。そのときは受信機の SYNC RX->TX メニューから、再度設定してください。
- 受信機のディスプレイに COMPLETE と表示されていても送信機が振動しない場合は、設定が完了していない可能性があります。その場合は、受信機の SYNC RX->TX メニューから再度設定ください。

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P41D）

1 必要に応じて、受信機の接続をする。

- ◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」（43 ページ）をご覧ください。

2 2つの POWER（電源）スイッチ、または使用したいチューナーの POWER（電源）スイッチをオンにします。

ご注意

電源を入れるとノイズが発生する場合がありますので、受信機に接続した機器の音声入力レベルを絞ってから電源を入れてください。

3 受信機の NFC SYNC ボタンを 3 秒以上長押しする。

クリアチャンネルスキャンがスタートします。設定されているチャンネルグループ内から空いているチャンネルを探します。クリアチャンネルスキャンが完了すると、雑音や妨害電波の影響が最も少ないチャンネルに設定されます。チャンネルが設定されると、自動的に NFC または赤外線送信を開始します。

- ◆ グループの設定方法について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」（25 ページ）をご覧ください。

ご注意

- チューナー 1 と 2 の両方の電源が ON になっている場合、チューナー 1 側で設定されているバンドグループでスキャンを行います。このため、チューナー 2 のバンド設定はチューナー 1 と同じバンドグループになります。チューナー 1 と 2 で異なるバンドグループを設定したい

場合は、一方のチューナーの電源のみを ON した状態で NFC SYNC ボタンを押し、スキャンを行ってください。

- 多チャンネル運用が可能なグループ以外を選択し、UWP-D シリーズを同時に 2 組以上使用する場合は、混信する可能性があります。多チャンネルを考慮したチャンネルグループに設定するか、影響を受けないチャンネルに設定してください。

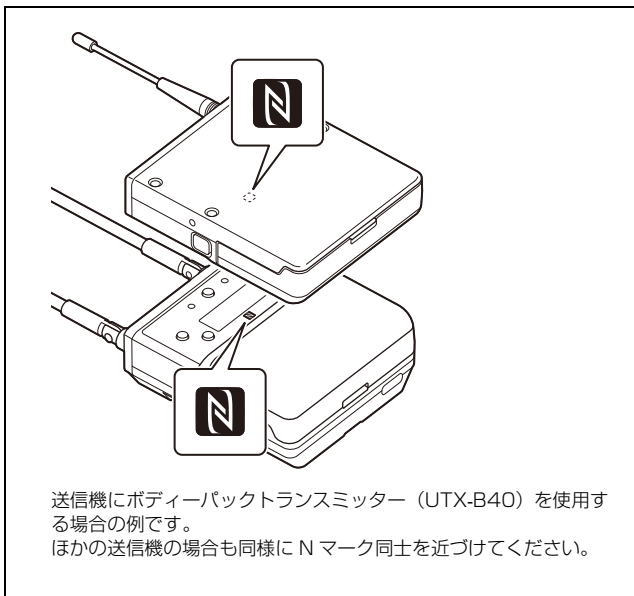
◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて詳しくは、周波数リストをご覧ください。

4 受信機で設定したチャンネル情報を送信機へ送る。

SYNC MODE で NFC を設定している場合

受信機と送信機の N マーク同士を近づけてください（目安は 5 mm 程度）。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分かつ電源 OFF の状態にしてください。



受信機で設定したチャンネル情報とコンパウンダーモードが送信機へ送られ、送信チャンネルが設定されます。送信機と受信機のディスプレイに COMPLETE と表示され、送信機が振動すると設定は完了です。

送信機が電源 OFF の状態で NFC 通信を行った場合には、送信機は自動的に電源 ON し、送信状態になります。

チューナー 1 と 2 の両方の電源が ON になっている場合、チューナー 1 と送信機の設定が完了すると、続けてチューナー 2 の NFC 通信が開始されます。チューナー 1 と同様に、チューナー 2 側と設定したい送信機の N マーク同士を近づけてください。

ご注意

- SYNC MODE が IR の場合は、NFC 通信はできません。
 - ◆ SYNC MODE の設定方法について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ) をご覧ください。
- NFC 通信は約 20 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから 20 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。20 秒を超えてしまった場合は、NFC 通信を行うかどうかの確認

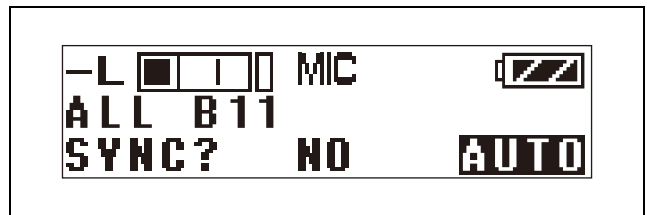
画面が表示されますので、再度 NFC 通信を実行してください。

- NFC を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。
- 受信機のディスプレイに COMPLETE と表示されていても送信機が振動しない場合は、設定が完了していない可能性があります。その場合は、受信機の SYNC RX1 (2) > TX メニューから再度設定ください。

SYNC MODE で IR を設定している場合

先に送信機の SET ボタンを押しながら POWER ボタンを 1 秒以上押して電源を入れ（送信停止モード）、本機の赤外線送信ポートと送信機の赤外線受光部を近づけてください。

受信機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。



チューナー 1 と 2 両方の電源が ON になっている場合は、チューナー 1 と送信機の設定が完了すると、続けてチューナー 2 の赤外線通信が開始されます。チューナー 1 と同様に、本機の赤外線送信ポートにチューナー 2 側と設定したい送信機の赤外線受光部を近づけてください。

ご注意

- SYNC MODE が NFC の場合は、赤外線通信はできません。
 - ◆ SYNC MODE の設定方法について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ) をご覧ください。
- 赤外線送信は約 10 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから、10 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。10 秒を超えてしまった場合は、赤外線送信を行うかどうかの確認画面が表示されますので、再度赤外線送信を実行してください。
- 送信機と本機は約 20 cm 以内に近づけてください。
- 送信機のディスプレイに確認メッセージが表示されてから何も操作せずに約 5 秒経過すると、チャンネル変更が行われず、元の状態に戻ります。
- 赤外線を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、使用チャンネルを設定するとき

に、送信機の電源を OFF にしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケータが点灯していないチャンネル（雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル）を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWP-D シリーズを同時に2組以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- URX-P41D で同時に周波数を2つ以上使用する場合は、必ず同一グループ内の異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに3 m 以上離して使うことをおすすめします。
- 2組以上のUWP-D シリーズで異なるチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100 m 以上離してください（距離は使用環境により異なります）。

受信機の設定

メニュー構成と操作方法

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40)

メニューの表示モードには2種類あり、用途に応じて使い分けることができます。

シンプルモード

受信および音声出力に必要な基本設定のみが表示されるモードです。

MENU MODE（メニュー表示モード）を SIMPLE に設定すると、シンプルモードでの表示となります。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- PHONES（モニター音量）設定
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90U モデル、E モデルには、このメニューはありません）
- CLR CH SCAN（クリアチャンネルスキャン）機能
- OUTPUT LEVEL（オーディオ出力レベル）設定
- SYNC RX->TX（NFC 通信）機能
- SYNC TX->RX（NFC 通信）機能
- POWER LOCK（POWER ボタンロック）機能
- RUNNING TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定

拡張モード

すべての設定メニューが表示されるモードです。

MENU MODE（メニュー表示モード）を ADVANCED に設定すると、拡張モードでの表示となります。

ご注意

シンプルモードで使用する場合でも、拡張モードで最後に設定した内容が反映されます。

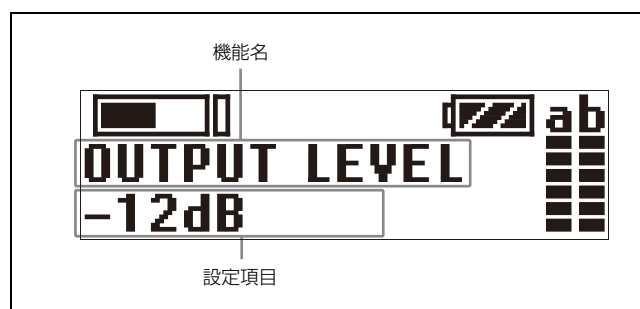
設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- PHONES（モニター音量）設定
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90U モデル、E モデルには、このメニューはありません）
- CLR CH SCAN（クリアチャンネルスキャン）機能
- OUTPUT LEVEL（オーディオ出力レベル）設定
- SYNC RX->TX（NFC 通信）機能
- SYNC TX->RX（NFC 通信）機能
- POWER LOCK（POWER ボタンロック）機能
- RUNNING TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定

- MONITOR MODE (モニター音量画面固定) 機能
- CH MEMORY (前回設定チャンネル記憶) 機能
- POWER SOURCE (外部電源選択) 設定
- ACT CH SCAN (アクティブチャンネルスキャン) 機能
- COMPANDER (コンパンダーモード) 設定
- BATTERY TYPE (電池の種類) 設定
- DISPLAY MODE (ディスプレイの設定) 機能
- BRIGHTNESS (ディスプレイの明るさ) 設定
- FCT RESET (工場出荷設定) 機能
- VERSION (ソフトウェアバージョン) 表示

メニューの基本操作

メニューの基本的な操作は、シンプルモードと拡張モードで共通です。



- 1 +または-ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。
- 2 設定項目が点滅するまでSET ボタンを長押しする。
- 3 +または-ボタンを押して、設定を変更する。
- 4 SET ボタンを押して決定する。

で注意

何も操作せずに30秒経過すると、ディスプレイが消灯または減光します。何かボタンを押すと、再度ディスプレイが点灯します。

- ◆ ディスプレイの設定について詳しくは、「ディスプレイの表示設定を変更する (DISPLAY MODE)」(31 ページ) をご覧ください。

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D)

メニューおよび各メニューの階層は、以下の構成になります。

UTILITY メニュー

チューナー1および2の各種情報が表示されているメーター画面からUTILITYメニューを表示できます。UTILITYメニューでは本機の基本設定を行えます。

RX1 (チューナー1) メニュー

RX1 (チューナー1) の各種設定を行えます。

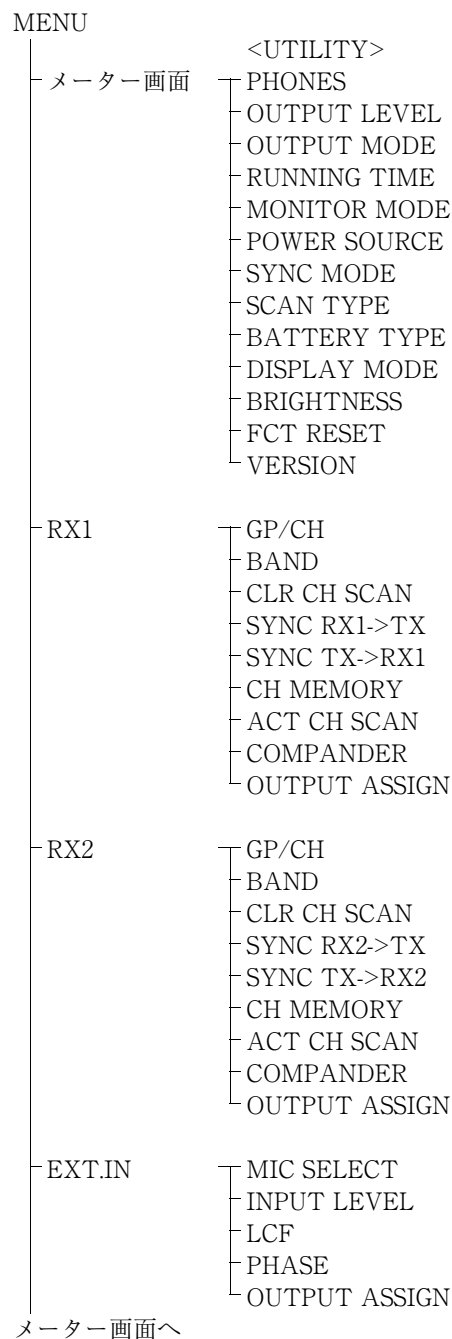
RX2 (チューナー2) メニュー

RX2 (チューナー2) の各種設定を行えます。

EXT.IN メニュー

MIC INPUT (音声入力) 端子に接続したマイクロホンについての設定をするメニューです。

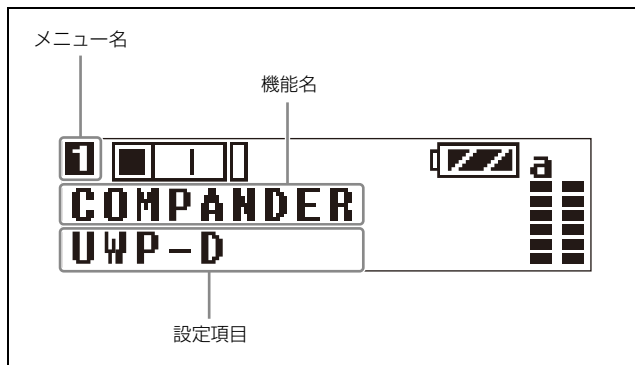
メニューツリー



で注意

- 日本国内モデル、韓国向けモデル、90Uモデル、EモデルにはSCAN TYPEおよびBANDのメニューはありません。
- SYNC MODEでIRを選択しているときは、SYNC TX->RX1(2)は表示されません。

メニューの基本操作



- 1 MENU ボタンを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。
ボタンを押すごとに、メーター画面、RX1、RX2、EXT.IN、メーター画面の順番で切り換わります。UTILITY メニュー内の項目を変更したい場合は、メーター画面を表示させてください。
- 2 +または-ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。
- 3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
- 4 +または-ボタンを押して、設定を変更する。
- 5 SET ボタンを押して決定する。

で注意

電源スイッチが OFF になっているチューナーのメニューは表示されません。何も操作せずに 30 秒経過すると、ディスプレイが消灯または減光します。いずれかのボタンを押すと、再度ディスプレイが点灯します。

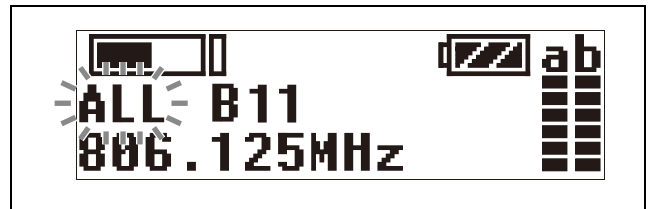
◆ ディスプレイの設定について詳しくは、「ディスプレイの表示設定を変更する (DISPLAY MODE)」(33 ページ) をご覧ください。

受信チャンネルを設定する

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40)

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「周波数リスト」を参照してください。

- 1 +または-ボタンを使って GP/CH メニューを表示させる。
- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
チャンネルグループ表示が点滅します。



- 3 +または-ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



- 4 +または-ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

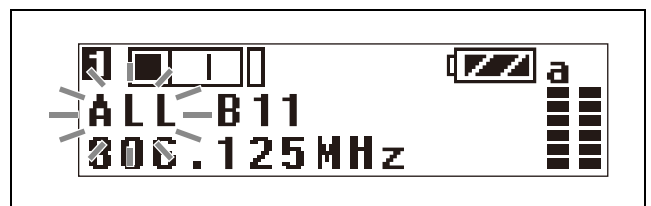
この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D)

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「周波数リスト」を参照してください。

- 1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+または-ボタンを押して GP/CH 画面を表示させる。

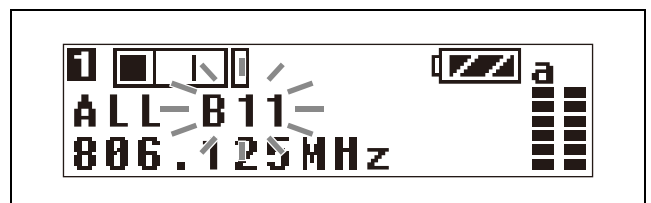
- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅します。



- 3 +または-ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



- 4 + または - ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、ほかの項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできます。
- 設定中に電池を抜かないでください。抜けてしまった場合や電源が切れた場合は、電源を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P40）

設定されているチャンネルグループ内の空きチャンネルを検索することができます。

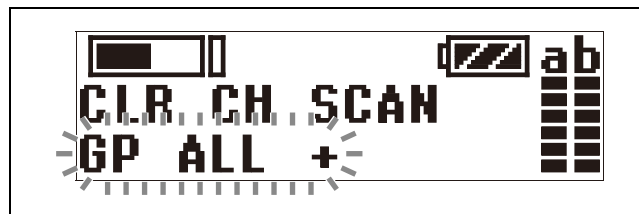
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

- ◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（25ページ）をご覧ください。

- 1 + または - ボタンを押して、CLR CH SCAN メニューを表示させる。

- 2 SET ボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



- 3 + ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかり、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには

+ ボタンを押します。

検索をキャンセルするには

- ボタンを押します。CLR CH SCAN メニュー画面に戻ります。

- 4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

空きチャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

チャンネルを確定させると NFC 通信で設定を送信するかどうかを選択できます。

- 5 YES を選択し、受信機と送信機の N マークを近づける。

受信機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信チャンネルが設定されます。

送信機のチャンネル設定を行いたくない場合は、NO を選択するか、何も操作せずに10秒経過させると、送信機への設定の送信は行われません。

自動的にチャンネルスキャンを行うには

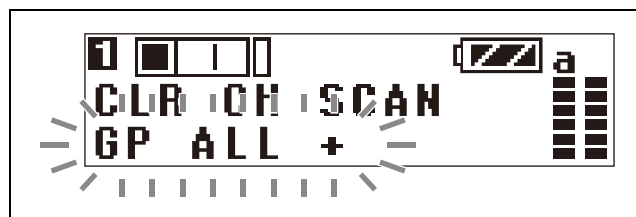
受信機の電源が ON のときに、NFC SYNC ボタンを3秒以上長押しすると、自動的にクリアチャンネルスキャンが行われます。

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P41D）

- 1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ または - ボタンを押して CLR CH SCAN 画面を表示させる。

- 2 SET ボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



- 3 + ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかり、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには

+ ボタンを押します。

検索をキャンセルするには

- ボタンを押します。- ボタンを押すと、CLR CH SCAN 画面に戻ります。

- 4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

空きチャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

チャンネルを確定させると、SYNC MODE で選択している、NFC 通信または赤外線通信のどちらかの通信で設定を送信することができます。

- 5 受信機で設定したチャンネル情報を送信機へ送る。

SYNC MODE で NFC を設定している場合

YES を選択して受信機と送信機の N マークを近づけてください。

SYNC MODE で IR を設定している場合

YES を選択して本機の赤外線送信ポートと送信機の赤外線受光部を近づけてください。

受信機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信チャンネルが設定されます。送信機のチャンネル設定を行いたくない場合は NO を選択するか、10 秒間何も操作しないでください。送信機への設定の送信は行われません。

- ◆ NFC 通信または赤外線での通信について詳しくは、「NFC 通信または赤外線通信で送信機の設定を行う (SYNC RX1(2)→TX)」 (34 ページ) をご覧ください。

自動的にチャンネルスキャンを行うには

受信機の電源が ON のときに、NFC SYNC ボタンを 3 秒以上長押しすると、自動的にクリアチャンネルスキャンが行われます。

で注意

NFC SYNC ボタンでの設定では、RX1 と RX2 の両方の電源が ON のとき、2 つのチューナーが同時にチャンネルスキャンされます。片方のチューナーのチャンネルを変更したくない場合は、変更したくないチューナー側の電源を OFF してスキャンするか、RX1/2 メニューの CLR CH SCAN でスキャンしてください。

グループ内の使用チャンネルを検索する (アクティブチャンネルスキャン)

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P40)

設定されているチャンネルグループ内で、すでに使用しているチャンネルを検索することができます。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

- ◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」 (25 ページ) をご覧ください。

- 1 + または - ボタンを押して、ACT CH SCAN メニューを表示させる。

- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+ 表示が点滅するまで長押ししてください。



- 3 + ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、すでに使用しているチャンネルを検索します。使用チャンネルが見つかると、最初の使用チャンネルの番号が点滅します。

次の使用チャンネルを表示させるには

+ ボタンを押します。

検索をキャンセルするには

- ボタンを押します。ACT CH SCAN メニュー画面に戻ります。

- 4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

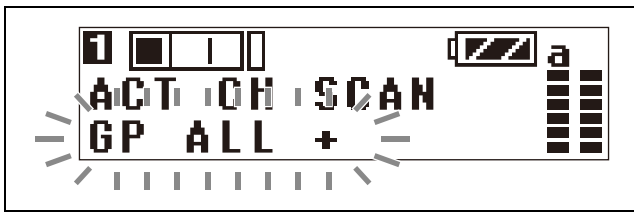
使用チャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D)

- 1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ または - ボタンを押して ACT CH SCAN 画面を表示させる。

2 SET ボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



3 + ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、すでに使用しているチャンネルを検索します。使用チャンネルが見つかったら、最初の使用チャンネルの番号が点滅します。

次の使用チャンネルを表示させるには

+ ボタンを押します。

検索をキャンセルするには

- ボタンを押します。ACT CH SCAN 画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

使用チャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

モニター音量を調節する

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40)

モニター音量は、1～16の範囲で設定できます。

1 + または - ボタンを押して、PHONES メニューを表示させる。

現在のモニター音量のレベルが表示されます。



2 SET ボタンを1秒以上長押しする。

モニター音量レベルが点滅するまで長押ししてください。

3 + または - ボタンを押して希望のモニター音量レベルに設定し、SET ボタンを押す。

設定値が記憶されます。設定値は、電源を切っても保持されます。

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D)

1 MENU ボタンを押してメーター画面を表示させ、+ または - ボタンを押して PHONES 画面を表示させる。

現在のモニター音量のレベルが表示されます。



2 SET ボタンを1秒以上長押しする。

モニター音量レベルが点滅するまで長押ししてください。

3 + または - ボタンを押して希望のモニター音量レベルに設定し、SET ボタンを押す。

設定値が記憶され、電源を切っても保持されます。

設定メニュー

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40)

ここでは、各機能と変更項目を説明します。

下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ／チャンネルを選択する (GP/CH)

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」(25ページ)をご覧ください。

モニター音量を調節する (PHONES)

ヘッドホンのモニター音量を調節します。

工場出荷時の設定は12です。

◆ 詳しくは「モニター音量を調節する」(28ページ)をご覧ください。

周波数帯域を選択する (BAND)

受信周波数帯域を選択します。

ご注意

日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

- ◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは周波数リストをご覧ください。

空きチャンネルを探して選択する (CLR CH SCAN)

空きチャンネルを検索します。

- ◆ 詳しくは「グループ内の空きチャンネルを検索する (クリアチャンネルスキャン)」(26 ページ)をご覧ください。

オーディオ出力レベルを設定する (OUTPUT LEVEL)

音声の出力レベルを設定します。- 12 dB から + 12 dB まで、3 dB 刻みで設定できます。工場出荷時の設定は 0 dB です。

ご注意

OUTPUT LEVEL メニューで出力レベルを変更しても、モニター出力レベルは変わりません。モニター出力レベルは別途調節してください。

- ◆ モニター音量の調節方法について詳しくは、「モニター音量を調節する」(28 ページ)をご覧ください。

NFC 通信で送信機の設定を行う (SYNC RX->TX)

NFC 通信を使って、受信機で設定した周波数およびコンパウンダーモードを送信機に送信します。

- 1 + または - ボタンを押して、SYNC RX->TX メニューを表示させる。
- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
確認画面に切り換わります。
- 3 + または - ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。
- 4 受信機と送信機の N マーク同士を近づける (目安は 5 mm 程度)。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分かつ電源 OFF の状態にしてください。
送信機の使用周波数およびコンパウンダーモードが設定されます。

ご注意

- NFC 通信は、約 20 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから 20 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。20 秒を超えると、自動的に NFC 通信を終了し、GP/CH メニューが表示されます。
- NFC 通信中は、ワイヤレスマイクの電波は受信できません。

NFC 通信で送信機の設定を受信機に反映させる (SYNC TX->RX)

NFC 通信を使って、送信機に設定されている周波数およびコンパウンダーモードを取得し、受信機に反映します。

- 1 + または - ボタンを押して、SYNC TX->RX メニューを表示させる。
- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
確認画面に切り換わります。
- 3 + または - ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。
- 4 受信機と送信機の N マーク同士を近づける (目安は 5 mm 程度)。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分かつ電源 OFF の状態にしてください。
受信機の使用周波数およびコンパウンダーモードが設定されます。

ご注意

- NFC 通信は、約 20 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから 20 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。20 秒を超えると、自動的に NFC 通信を終了し、GP/CH メニューが表示されます。
- NFC 通信中は、ワイヤレスマイクの電波は受信できません。

POWER ボタンをロックする (POWER LOCK)

受信中に電源を OFF にしてしまうなどの誤操作を防ぐため、POWER ボタンをロックすることができます。

UNLOCK : POWER ボタンを長押しすると、電源の ON/OFF ができます。

LOCK : POWER ボタンを長押ししても、電源の OFF ができません。

ロック状態を解除するには

ロック状態を解除するには POWER LOCK メニューで UNLOCK に設定するか、以下の操作を行ってください。

- 1 LOCK に設定された状態で、POWER ボタンを長押しする。

ロック状態を解除するかを確認するメッセージが表示されます。

- 2 +または-ボタンを使って YES を選択し、SET ボタンを押す。

ロック状態が解除されます。

ご注意

LOCK に設定された状態で電池を引き抜き、再度装着した場合には自動的に電源が ON になりますが、POWER ボタンのロック状態は変わりません。

累積使用時間を表示する (RUNNING TIME)

使用時間の目安として、受信機の累積使用時間を表示します。工場出荷時の設定は、00:00 です。99:59 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

- 1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

- 2 -ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で+ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

メニュー表示モードを設定する (MENU MODE)

メニューの表示モードを設定します。

SIMPLE：基本的な設定のみが表示されるモードです。

ADVANCED：すべての設定が表示されるモードです。


モニター音量モードを使用する (MONITOR MODE)

有効にすると、ディスプレイ表示がモニター音量画面に固定され、+または-ボタンを押すとモニター音量の変更のみを行えるようにする機能です。

- 1 +または-ボタンを押して、MONITOR MODE メニューを表示させる。

- 2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

- 3 +または-ボタンを押して「ON」を表示させ、SET ボタンを押す。

モニター音量モードになり、が表示されます。

モニター音量モードを解除するには

- 1 「ESCAPE?」と表示されるまで、SET ボタン、POWER ボタン、または NFC SYNC ボタンを 1 秒以上長押しする。

- 2 +または-ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。

固定が解除されます。

ご注意

- この機能は拡張モード時のみ表示されます。
- 電源を OFF にするとこの機能は解除されます。電源を ON した後に再度設定してください。

直前に設定されていたチャンネルに切り換える (CH MEMORY)

直前に設定されていたチャンネルに切り換えます。1つの受信機を 2つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

あらかじめ、使用したいチャンネルに設定しておいてください。

- ◆ チャンネル設定方法について詳しくは「受信チャンネルを設定する」(25 ページ)をご覧ください。

- 1 +または-ボタンを押して、CH MEMORY メニューを表示させる。

- 2 「YES?」が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

- 3 SET ボタンを押す。

直前に設定されていたチャンネルと現在設定されているチャンネルが表示されます。

+または-ボタンを押すごとにチャンネルが切り換わります。

CH MEMORY 機能を終了するには

- 1 「CANCEL?」と表示されるまで、SET ボタンを長押しする。

- 2 +または-ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。

CH MEMORY メニューに戻ります。

ご注意

- この機能は拡張モード時のみ表示されます。

- 工場出荷時のチャンネル設定のままこの機能を有効にすると、工場出荷時のチャンネルが2つ表示されます。
- この機能を使用している間は NFC SYNC ボタンが無効になります。NFC SYNC ボタンを使いたいときは、この機能を無効にしてください。
- BAND を変更した場合は、変更後の BAND の既定のチャンネルが直前に設定されていたチャンネルとして記憶されます。

優先的に使用する電源を選択する (POWER SOURCE)

本体に装着した電池と、USB 端子に接続した USB ポータブル電源や外部接続用端子に接続したアクセサリとの、どちらから優先的に電源供給するかを設定します。

BATT -> EXT：本体に装着した電池を優先的に使用します。

EXT -> BATT：USB 端子または外部接続用端子から供給される電源を優先的に使用します。

BATT ONLY：本体に装着した電池を使用し、残量がなくなっても USB 端子や外部接続端子から供給される電源には切り換わりません。

ご注意

- BATT -> EXT および EXT -> BATT に設定している場合は、優先的に使用している電源が切れると、自動的にもう一方からの電源供給に切り換わります。そのため、電源がひとつだけ接続されている場合は、POWER SOURCE の設定に関わらず接続されている電源から供給されます。なお、供給される電源が切り換わる際に音切れが発生することがあります。
- USB 端子と外部接続用端子の両方から電源が供給されている場合は、USB 端子からの供給を選択します。

すでに使用されているチャンネルに設定する (ACT CH SCAN)

すでに使用されているチャンネルを検索します。複数の受信機を、1つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

- ◆ 詳しくは「グループ内の使用チャンネルを検索する (アクティブチャンネルスキャン)」(27 ページ) をご覧ください。

コンパnderモードを設定する (COMPANDER)

コンパnderの動作モードを設定します。

UWP-D：UWP-D シリーズ同士の組み合わせで使用できる、高音質モードです。

UWP：ソニー UWP シリーズの送信機と組み合わせて使用できるモードです。

WL800：ソニー 800 シリーズの送信機と組み合わせて使用できるモードです。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- コンパnderモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

電池の種類を設定する (BATTERY TYPE)

使用している電池の種類に合わせて設定しておくこと、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1：アルカリ単3形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品の特定のメーカーのアルカリ単3形乾電池の特性を基準に残量を表示します。

TYPE2：充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。

TYPE3：リチウム乾電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。
- 単3形リチウムイオン充電電池は使用できません。

ディスプレイの表示設定を変更する (DISPLAY MODE)

ボタン操作せずに30秒経過したときの有機ELディスプレイの表示のしかたを変更する機能です。

AUTO OFF：ボタン操作せずに30秒経過すると消灯します。ボタンを押すと点灯します。

DIMMER：ボタン操作せずに30秒経過すると減光します。ボタンを押すと点灯します。

ご注意

この機能は拡張モード時のみ表示されます。

表示の明るさを設定する (BRIGHTNESS)

有機ELディスプレイの明るさを10段階で調整します。

設定できる値は以下のとおりです。
(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

工場出荷設定に戻す (FCT RESET)

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+または-ボタンを押

して YES を選択し、SET ボタンを押すと、受信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- リセット時には、オーディオ出力レベルやモニター出力レベルも工場出荷設定に戻ります。接続機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する (VERSION)

受信機のソフトウェアバージョンを表示します。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

UTILITY メニュー

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D)

UTILITY メニューは、本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。

ここでは、機能の説明と変更項目を説明します。

下線表記は工場出荷時の設定です。

モニター音量を調節する (PHONES)

ヘッドホンのモニター音量を調節します。

工場出荷時の設定は 12 です。

- ◆ モニター音量の調節方法について詳しくは、「モニター音量を調節する」(28 ページ)をご覧ください。

オーディオ出力レベルを設定する (OUTPUT LEVEL)

音声の出力レベルを設定します。- 12 dB から + 12 dB まで、3 dB 刻みで設定できます。工場出荷時の設定は 0 dB です。

ご注意

OUTPUT LEVEL メニューで出力レベルを変更しても、モニター出力レベルは変わりません。モニター出力レベルは別途調節してください。

- ◆ モニター音量の調節方法について詳しくは、「モニター音量を調節する」(28 ページ)をご覧ください。

オーディオ出力のレンジを設定する (OUTPUT MODE)

OUTPUT 1/2 (音声出力 1/2) 端子の音声出力の範囲を設定します。OUTPUT LEVEL と組み合わせることで、広範囲の音声出力レベルの設定が可能です。

NORMAL GAIN：マイクロホンレベル (基準レベル - 60dBV)

HIGH GAIN：高出力モード (基準レベル -38dBV)

ご注意

SMAD-P5 (別売) を接続して音声出力する場合、この機能は表示されません。また、OUTPUT1/2 (音声出力 1/2) 端子からの出力は NORMAL GAIN となります。

累積使用時間を表示する (RUNNING TIME)

使用時間の目安として、受信機の累積使用時間を表示します。

工場出荷時の設定は、00:00 です。99:59 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 - ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で + ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。


モニター音量モードを使用する (MONITOR MODE)

有効にすると、ディスプレイ表示がモニター音量画面に固定され、+ または - ボタンを押すとモニター音量の変更のみを行えるようにする機能です。

1 + または - ボタンを押して、MONITOR MODE メニューを表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

3 + または - ボタンを押して「ON」を表示させ、SET ボタンを押す。

モニター音量モードになり、が表示されます。

モニター音量モードを解除するには

1 「ESCAPE?」と表示されるまで、SET ボタン、MENU ボタン、または NFC SYNC ボタンを 1 秒以上長押しする。

2 +または-ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。

固定が解除されます。

ご注意

- 電源をOFFにするとこの機能は解除されます。電源をONした後に再度設定してください。
- POWER スイッチをOFFにすると、各チューナーの電源もOFFになります。

優先的に使用する電源を選択する (POWER SOURCE)

本体に装着した電池と、USB 端子に接続した USB ポータブル電源や外部接続用端子に接続したアクセサリとの、どちらから優先的に電源供給するかを設定します。

BATT->EXT：本体に装着した電池を優先的に使用します。

EXT->BATT：USB 端子または外部接続用端子から供給される電源を優先的に使用します。

BATT ONLY：本体に装着した電池を使用し、残量がなくなっても USB 端子や外部接続端子から供給される電源には切り換わりません。

ご注意

BATT->EXT および EXT->BATT に設定している場合は、優先的に使用している電源が切れると、自動的にもう一方からの電源供給に切り換わります。そのため、電源がひとつだけ接続されている場合は、POWER SOURCE の設定に関わらず接続されている電源から供給されます。なお、供給される電源が切り換わる際に音切れが発生することがあります。

送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)

送信機のチャンネルやコンパンダーモードを設定するための通信方式を設定します。NFC で通信する場合は、送信機で設定されたチャンネルやコンパンダーモードを本機に反映させることが可能です。

NFC：NFC 通信で設定を行います。

IR：赤外線通信で設定を行います。

ご注意

送信機によって通信方法が異なります。SYNC MODE の設定の組み合わせが適切でない場合は、通信による設定ができません。

各送受信機での設定用通信方法		受信機	
		NFC 通信	赤外線通信
送信機	UTX-B40	○	○
	UTX-M40	○	○
	UTX-P40	○	○
	UTX-B03	×	○
	UTX-B03HR	×	○
	UTX-M03	×	○
	UTX-P03	×	○
	UWP シリーズ送信機	×	×
	WRT シリーズ送信機	×	×

電池の種類を設定する (BATTERY TYPE)

使用している電池の種類に合わせて設定しておく、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1：アルカリ単3形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品の特定のメーカーのアルカリ単3形乾電池の特性を基準に残量を表示します。

TYPE2：2000 mAh 前後の充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。

TYPE3：リチウム乾電池をお使いになるときの推奨設定です。

TYPE4：2500 mAh 前後の充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- 電池の特性は電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。
- 単3形リチウムイオン充電電池は使用できません。

ディスプレイの表示設定を変更する (DISPLAY MODE)

ボタン操作せずに30秒経過したときの有機ELディスプレイの表示のしかたを変更する機能です。

AUTO OFF：ボタン操作せずに30秒経過すると消灯します。ボタンを押すと点灯します。

DIMMER：ボタン操作せずに30秒経過すると減光します。ボタンを押すと点灯します。

表示の明るさを設定する (BRIGHTNESS)

有機ELディスプレイの明るさを10段階で調整します。設定できる値は以下のとおりです。

(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

工場出荷設定に戻す (FCT RESET)

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+または-ボタンを押してYESを選択し、SET ボタンを押すと、受信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

リセット時には、オーディオ出力レベルやモニター出力レベルも工場出荷設定に戻ります。接続機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する (VERSION)

受信機のソフトウェアバージョンを表示します。

RX1/2 (チューナー 1/2) メニュー

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D)

RX1/2 メニューは、本機の主機能であるワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。

- ◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」(25 ページ) をご覧ください。

グループ／チャンネルを選択する (GP/CH)

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

- ◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」(25 ページ) をご覧ください。

周波数帯域を選択する (BAND)

受信周波数帯域を選択します。

ご注意

日本国内向けモデル、韓国向けモデル、90U モデル、E モデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

- ◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについては、周波数リストをご覧ください。

空きチャンネルを探して選択する (CLR CH SCAN)

空きチャンネルを検索します。

- ◆ 詳しくは「グループ内の空きチャンネルを検索する (クリアチャンネルスキャン)」(26 ページ) をご覧ください。

NFC 通信または赤外線通信で送信機の設定を行う (SYNC RX1(2)->TX)

SYNC MODE で選択している NFC 通信または赤外線通信を使って、受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信します。

- ◆ SYNC MODE について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ) をご覧ください。

- 1 グループ／チャンネルを設定する (25 ページ)。
- 2 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させる。
- 3 +または-ボタンを押して SYNC RX1(2)->TX 画面を表示させる。
- 4 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
- 5 +または-ボタンで YES を選択し、SET ボタンを押す。
- 6 受信機で設定したチャンネル情報を送信機へ送る。

SYNC MODE で NFC を設定している場合

受信機と送信機の N マーク同士を近づけてください (目安は 5 mm 程度)。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分の状態ですべて電源を OFF にしてください。送信機の使用周波数およびコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- SYNC MODE が IR の場合は、NFC 通信はできません。
 - ◆ SYNC MODE の設定方法について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ) をご覧ください。
- NFC 通信は、約 20 秒間行われます。手順 5 の操作をしてから 20 秒以内に手順 6 の操作を行ってください。20 秒を超えてしまった場合は、NFC 通信を行うかどうかの確認画面が表示されますので、再度 NFC 通信を実行してください。
- NFC 通信中は、設定しているチューナーのワイヤレスマイクの電波は受信できません。

SYNC MODE で IR を設定している場合

送信機の SET ボタンを押しながら POWER ボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れてください。

電源を入れたら、本機の赤外線送信ポートと送信機の赤外線受光部を近づけてください。

本機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。

送信機の+または-ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押してください。送信チャンネルとコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- SYNC MODE が NFC の場合は、赤外線通信はできません。
 - ◆ SYNC MODE の設定方法について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ) をご覧ください。

- 赤外線送信は約 10 秒間行われます。手順 5 の操作をしてから、10 秒以内に手順 6 の操作を行ってください。10 秒を超えてしまった場合は、赤外線送信を行うかどうかの確認画面が表示されますので、再度赤外線送信を実行してください。

NFC 通信で送信機の設定を受信機に反映させる (SYNC TX->RX1 (2))

NFC 通信を使って、送信機に設定されている周波数およびコンパンダーモードを取得し、受信機に反映させます。

- +または-ボタンを押して、SYNC TX->RX メニューを表示させる。
- SET ボタンを 1 秒以上長押しする。
確認画面に切り換わります。
- +または-ボタンで YES を選択し、SET ボタンを押す。
- 受信機と送信機の N マーク同士を近づける (目安は 5 mm 程度)。

このとき送信機は、電源 ON の状態、または電池残量が充分の状態です。電源を OFF にしてください。受信機の使用周波数およびコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- NFC 通信は、約 20 秒間行われます。手順 3 の操作をしてから 20 秒以内に手順 4 の操作を行ってください。20 秒を超えてしまった場合は、NFC 通信を行うかどうかの確認画面が表示されますので、再度 NFC 通信を実行してください。
- NFC 通信中は、設定しているチューナーのワイヤレスマイクの電波は受信できません。
- SYNC MODE で IR を選択しているときは、メニューが表示されず、機能を使う事はできません。
 - ◆ SYNC MODE について詳しくは、「送信機との通信による設定方法を選択する (SYNC MODE)」(33 ページ)をご覧ください。

直前に設定されていたチャンネルに切り換える (CH MEMORY)

直前に設定されていたチャンネルに切り換えます。1 つのチューナーを 2 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

あらかじめ、使用したいチャンネルに設定しておいてください。

- ◆ チャンネル設定方法について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」(25 ページ)をご覧ください。

- +または-ボタンを押して、CH MEMORY メニューを表示させる。
- 「YES?」が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

- SET ボタンを押す。

直前に設定されていたチャンネルと現在設定されているチャンネルが表示されます。+または-ボタンを押すごとにチャンネルが切り換わります。

CH MEMORY 機能を終了するには

- 「CANCEL?」と表示されるまで、SET ボタンを長押しする。
- +または-ボタンを押して「YES」を表示させ、SET ボタンを押す。
CH MEMORY メニューに戻ります。

ご注意

- 工場出荷時のチャンネル設定のままこの機能を有効にすると、工場出荷時のチャンネルが 2 つ表示されます。
- この機能を使用している間は NFC SYNC ボタンが無効になります。NFC SYNC ボタンを使いたいときは、この機能を無効にしてください。
- BAND を変更した場合は、変更後の BAND の既定のチャンネルが直前に設定されていたチャンネルとして記憶されます。

すでに使用されているチャンネルに設定する (ACT CH SCAN)

すでに使用されているチャンネルを検索します。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

- ◆ 詳しくは「グループ内の使用チャンネルを検索する (アクティブチャンネルスキャン)」(27 ページ)をご覧ください。

コンパンダーモードを設定する (COMPANDER)

本機と組み合わせる送信機によって、コンパンダーモードを切り換える必要があります。

チューナー 1 とチューナー 2 に、それぞれ異なるコンパンダーモードを設定できます。

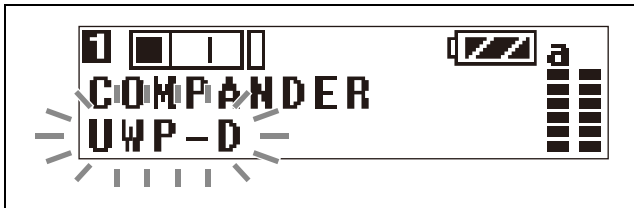
ご注意

- UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使う場合は、送信機のコンパンダーモードも本機と同じ設定にしてください。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため音が出ません。

- MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させる。
- +または-ボタンを押して COMPANDER 画面を表示させる。

3 SET ボタンを1秒以上長押しする。

選択項目が点滅します。



4 + または - ボタンでコンパンダーモードを選択し、SET ボタンを押す。

選択したコンパンダーモードに設定されます。

UWP-D：ソニー UWP-D シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。

UWP：ソニー UWP シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。

WL800：ソニー WRT シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。

送信機とコンパンダーモードの組み合わせ

使用する送信機に合ったコンパンダーモードに設定します。

ご注意

送信機とコンパンダーモードの設定の組み合わせが適切でない場合、音が出ません。

送信機		本機のコンパンダーモード		
		UWP-D	UWP	WL800
UWP-D シリーズ (UTX-B40、 UTX-M40、 UTX-P40、 UTX-B03、 UTX-M03、 UTX-P03、 UTX-B03HR)	コンパンダー モード：UWP-D	○	×	×
	コンパンダー モード：UWP	×	○	×
	コンパンダー モード：WL800	×	×	○

送信機		本機のコンパンダーモード		
		UWP-D	UWP	WL800
UWP シリーズ (UTX-B2、UTX-H2)		×	○	×
WRT シリーズ (WRT-822、WRT-860 など)		×	×	○

受信した音声を入力する端子を選択する (OUTPUT ASSIGN)

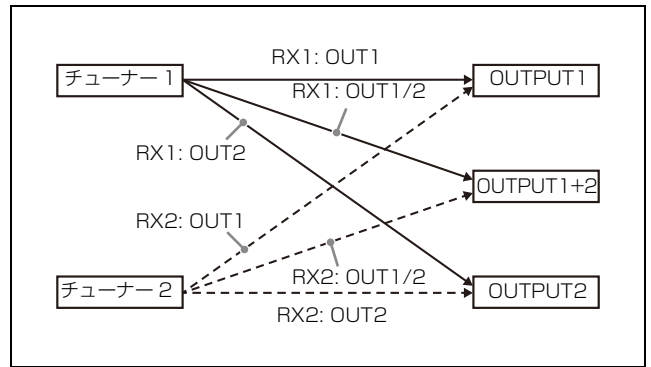
受信している信号を入力する端子を選択します。
工場出荷時の設定は、チューナー 1 が OUT1、チューナー 2 が OUT2 です。

OUT1：OUTPUT 1 端子から音声を入力します。

OUT1/2：OUTPUT 1/2 端子の双方に音声を入力します。

OUT2：OUTPUT 2 端子から音声を入力します。

以下の組み合わせで出力端子の設定が可能です。



EXT.IN メニュー

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P41D)

EXT.IN メニューは、本機の MIC INPUT (音声入力) 端子に接続したマイクロホンについての設定を行うメニューです。

使用する外部マイクロホンを選択する (MIC SELECT)

MIC INPUT (音声入力) 端子に接続したマイクロホンの種類を選択します。

OFF：外部マイクを使用しないときに選択します。

PLUG-IN PWR：プラグインパワー方式のマイクロホンを使用するときに選択します。

MONO BMP+5V：ソニー製のラベリアマイクロホンを使用するときに選択します。

入力レベルを調整する (INPUT LEVEL)

入力レベルを -12 dB ~ +12 dB の範囲で設定できます。

接続するマイクロホンにあわせて調整してください。

工場出荷時の設定は 0 dB です。

ローカットフィルターを設定する (LCF)

風による雑音を低減するため、ローカットフィルターを設定できます。

カットオフ周波数を OFF/LOW/MID/HIGH の 4 段階に設定できます。

OFF：フィルターなし

LOW：カットオフ周波数 100 Hz

MID：カットオフ周波数 150 Hz

HIGH：カットオフ周波数 200 Hz

マイクロホンの位相を切り換える (PHASE)

逆位相で出力されるマイクロホンを接続する際に、位相を切り換えることができます。

NORMAL：位相を反転しません。

INVERT：内部で位相を反転させます。

入力した音声を出力する端子を選択する (OUTPUT ASSIGN)

入力されている信号を出力する端子を選択します。

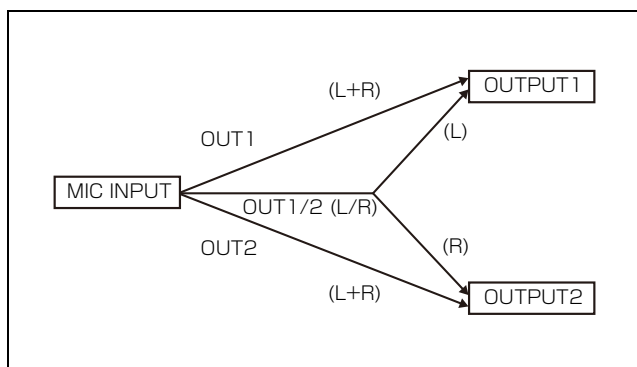
OUT1：OUTPUT 1 端子から音声を出します。接続されているマイクロホンが L/R タイプの場合は、ミックスして出力されます。

OUT1/2 (L/R)：OUTPUT 1/2 端子の双方に音声を出します。接続されているマイクロホンが LR タイプの場合は、L が OUTPUT 1 端子、R が OUTPUT 2 端子から出力されます。

OUT2：OUTPUT 2 端子から音声を出します。接続されているマイクロホンが LR タイプの場合は、ミックスして出力されます。

以下の組み合わせで出力端子の設定が可能です。

() 内は LR タイプのマイクロホンの時の出力です。



送信機の設定

メニュー構成と操作方法

この操作の対象：すべての送信機 (UTX-B40/M40/P40)

メニューの表示モードには3種類あり、用途に応じて使い分けることができます。

シンプルモード

音声の送信に必要な基本設定のみが表示されるモードです。MENU MODE (メニュー表示モード) を SIMPLE に設定すると、シンプルモードでの表示となります。

設定メニューの種類

- GP/CH (グループ/チャンネル) 選択
- BAND (周波数帯域) 選択 (日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90U モデル、E モデルには、このメニューはありません)
- ATTENUATOR (アッテネーター) 設定
- GAIN MODE (オーディオゲイン) 設定
- LCF (ローカットフィルター) 設定
- INPUT LEVEL (オーディオ入力レベル) 選択 (UTX-B40/P40 のみ)
- RF POWER (RF 送信出力レベル) 選択
- +48V SUPPLY (+48 V 電源) 設定 (UTX-P40 のみ)
- POWER LOCK (POWER ボタンロック) 機能
- RUNNING TIME (累積使用時間) 表示
- MENU MODE (メニュー表示モード) 設定

ご注意

以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。

- GP/CH (グループ/チャンネル) 選択
- BAND (周波数帯域) 選択 (日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90U モデル、E モデルには、このメニューはありません)
- RF POWER (RF 送信出力レベル) 選択

拡張モード

すべての設定メニューが表示されるモードです。

MENU MODE (メニュー表示モード) を ADVANCED に設定すると、拡張モードでの表示となります。

ご注意

シンプルモードで使用する場合でも、拡張モードで最後に設定した内容が反映されます。

設定メニューの種類

- GP/CH (グループ/チャンネル) 選択

- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90Uモデル、Eモデルには、このメニューはありません）
- ATTENUATOR（アッテネーター）設定
- GAIN MODE（オーディオゲイン）設定
- LCF（ローカットフィルター）設定
- INPUT LEVEL（オーディオ入力レベル）選択（UTX-B40/P40のみ）
- RF POWER（RF送信出力レベル）選択
- +48V SUPPLY（+48V電源）設定（UTX-P40のみ）
- POWER LOCK（POWERボタンロック）機能
- RUNNING TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定
- MUTE SETTING（消音設定）機能（UTX-B40/P40のみ）
- POWER/MUTE（電源／消音）設定（UTX-M40のみ）
- AUDIO PHASE（位相切り換え）設定（UTX-B40のみ）
- COMPANDER（コンパンダーモード）設定
- OCUPNCY SENS（人感センサーモード）設定
- BATTERY TYPE（電池の種類）設定
- DISPLAY MODE（ディスプレイの設定）機能
- BRIGHTNESS（ディスプレイの明るさ）設定
- FCT RESET（工場出荷設定）機能
- VERSION（ソフトウェアバージョン）表示

ご注意

以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90Uモデル、Eモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF送信出力レベル）選択
- FCT RESET（工場出荷設定）機能

送信停止モード

電波の送信を停止した状態で、設定を変更できるモードです。

チャンネル設定の際など、意図しない電波を放射してほかの無線に妨害を与えないようにするには、このモードを使用します。

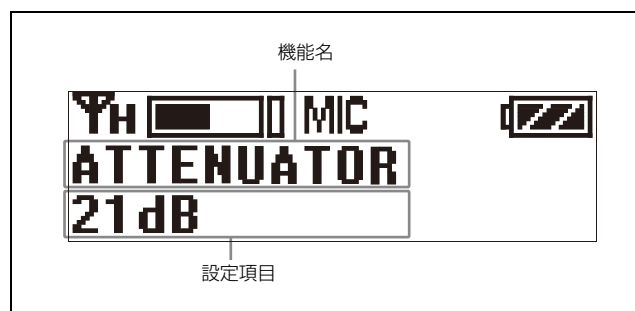
電源OFFの状態から、SETボタンを押しながらPOWERボタンまたはPOWER/MUTEボタンを1秒以上長押しして電源をONにすると、送信停止モードでの表示となります。

以下の設定メニューは、送信停止モードでのみ変更できません。

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデル、90Uモデル、Eモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF送信出力レベル）選択
- FCT RESET（工場出荷設定）機能

メニューの基本操作

メニューの基本的な操作は、シンプルモード、拡張モードおよび送信停止モードで共通です。



- 1 +または-ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。
- 2 設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。
- 3 +または-ボタンを押して、設定を変更する。
- 4 SETボタンを押して決定する。

ご注意

何も操作せずに30秒経過すると、ディスプレイが消灯または減光します。何かボタンを押すと、再度ディスプレイが点灯します。

- ◆ ディスプレイの設定について詳しくは、「ディスプレイの表示設定を変更する（DISPLAY MODE）」（41ページ）をご覧ください。

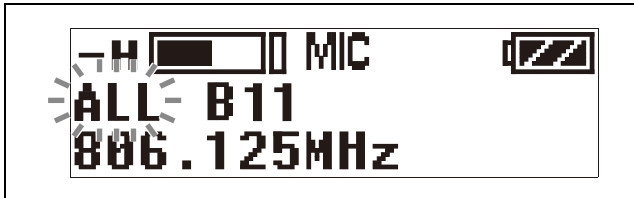
送信チャンネルを設定する

この操作の対象：すべての送信機（UTX-B40/M40/P40）

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「周波数リスト」を参照してください。

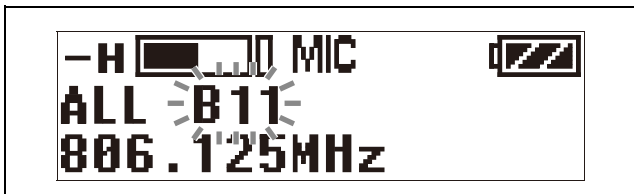
- 1 SETボタンを押しながらPOWERボタンまたはPOWER/MUTEボタンを長押しし、送信停止モードで電源をONにする。
- 2 +または-ボタンを使ってGP/CHメニューを表示させる。
- 3 SETボタンを1秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅するまで長押ししてください。



- 4 +または-ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



- 5 +または-ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

- 6 POWER ボタンまたはPOWER/MUTE ボタンを長押しし、電源を OFF にする。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、ほかの項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

設定メニュー

この操作の対象：すべての送信機 (UTX-B40/M40/P40)

ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ／チャンネルを選択する (GP/CH)

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

- ◆ 詳しくは「送信チャンネルを設定する」(38ページ)をご覧ください。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

周波数帯域を選択する (BAND)

送信周波数帯域を選択します。

ご注意

- この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。
- 日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

- ◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは周波数リストをご覧ください。

音声入力のアッテネーターレベルを調整する (ATTENUATOR)

音声入力ひずまないように、アッテネーターレベルを3 dB 刻みで設定できます。

工場出荷時の設定は、UTX-B40 は9 dB、UTX-M40/P40 は0 dBです。

ご注意

- UTX-B40/P40 では、INPUT LEVEL を LINE に設定しているときおよびGAIN MODE を AUTO GAIN に設定しているときは、「-」と表示され、アッテネーターレベルの設定はできません (固定)。
- アッテネーターレベルを大きくすると、雑音が増えることがあります。ラベリアマイクロホンに胸元に付けて使用する場合は、できるだけ0 dB に設定してください。

音声のゲインを設定する (GAIN MODE)

AUTO GAIN：ゲインを高く設定し、リミッターにより歪みにくくする設定です。

NORMAL：アッテネーターレベルの調整が可能です。接続するマイクロホンに合わせてアッテネーターを調整できます。

15dB BOOST：マイクロホンが口元から離れてしまい、オーディオレベルが足りない場合に15 dBのゲインを加える設定です。

ご注意

- UTX-B40/P40 では、INPUT LEVEL を LINE に設定しているときは、「-」と表示され、音声のゲインは設定できません。
- GAIN MODE を AUTO GAIN に設定しているときは、ATTENUATOR の設定はできません。
- GAIN MODE の設定を変更すると、受信機に接続した機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ローカットフィルターを設定する (LCF)

風による雑音を低減するため、ローカットフィルターを設定できます。

カットオフ周波数を OFF/LOW/MID/HIGH の 4 段階に設定できます。

OFF：フィルターなし

LOW：カットオフ周波数 100 Hz

MID：カットオフ周波数 150 Hz

HIGH：カットオフ周波数 200 Hz

オーディオ入力レベルを切り換える (INPUT LEVEL) (UTX-B40/P40 のみ)

オーディオ入力機器に応じて、入力レベルを設定します。MIC/LINE の切り換えが可能です。工場出荷時の設定は、MIC です。

ご注意

- オーディオミキサーなどからの音声の入力中に、この機能を「MIC」に切り換えないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。
- INPUT LEVEL を LINE に設定しているときは、ATTENUATOR および GAIN MODE は「--」と表示され、設定はできません。

送信出力のレベルを設定する (RF POWER)

送信する電波の強さを HIGH または LOW に設定します。それぞれの送信出力は、お使いのモデルによって異なります。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

マイクロホンへの電源供給を設定する (+48V SUPPLY) (UTX-P40 のみ)

外部電源が必要なマイクロホンを使用している場合に、送信機から電源を供給できます。

ON に設定すると、接続したマイクロホンに電源が供給され、+48V インジケーターが点灯します。

工場出荷時の設定は、OFF です。

POWER ボタンをロックする (POWER LOCK)

送信中に電源を OFF にしてしまうなどの誤操作を防ぐため、POWER ボタンをロックすることができます。

UNLOCK：POWER ボタンを長押しすると、電源の ON/OFF ができます。

LOCK：POWER ボタンを長押ししても、電源の OFF ができません。

ロック状態を解除するには

ロック状態を解除するには POWER LOCK メニューで UNLOCK に設定するか、以下の操作を行ってください。

- 1 LOCK に設定された状態で、POWER ボタンを長押しする。

ロック状態を解除するかを確認するメッセージが表示されます。

- 2 + または - ボタンを使って YES を選択し、SET ボタンを押す。

電源が OFF になります。

ご注意

LOCK に設定された状態で電池を引き抜き、再度装着した場合には自動的に電源が ON になりますが、POWER ボタンのロック状態は変わりません。

累積使用時間を表示する (RUNNING TIME)

使用時間の目安として、送信機の累積使用時間を表示します。

工場出荷時の設定は、00:00 です。99:59 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

- 1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

- 2 - ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で + ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

メニュー表示モードを設定する (MENU MODE)

メニューの表示モードを設定します。

SIMPLE：基本的な設定のみが表示されるモードです。

ADVANCED：すべての設定が表示されるモードです。

消音機能の動作を設定する (MUTE SETTING) (UTX-B40/P40 のみ)

送信中に MUTE ボタンを操作することによって消音状態となり、受信機から音声を出力しないようにできます。

ここでは、MUTE ボタンでどのような操作を行うと消音状態になるのかを設定します。

MUTE(ALT)：MUTE ボタンを押すと消音状態になります。再度 MUTE ボタンを押すと音声が出力されます。

MUTE HOLD：MUTE ボタンを押している間は消音状態になり、MUTE ボタンを離すと音声が出力されます。

PTT HOLD : MUTE ボタンを押している間は音声が出力され、MUTE ボタンを離すと消音状態になります。

DISABLE : MUTE ボタンを操作しても消音状態になりません。

消音機能の動作を設定する (POWER/MUTE) (UTX-M40 のみ)

送信中に POWER/MUTE ボタンを操作することによって消音状態となり、受信機から音声を出力しないようにできます。

ここでは、POWER/MUTE ボタンでどのような操作を行うと消音状態になるのか、および POWER/MUTE ボタンでの電源 ON/OFF を有効にするかを設定します。

POWER/MUTE : POWER/MUTE ボタンを押すと消音状態になります。再度 POWER/MUTE ボタンを押すと音声が出力されます。また、POWER/MUTE ボタンを 1 秒以上長押しすると電源を ON/OFF できます。

MUTE(ALT) : POWER/MUTE ボタンを押すと消音状態になります。再度 POWER/MUTE ボタンを押すと音声が出力されます。POWER/MUTE ボタンで電源 ON/OFF はできません。

MUTE HOLD : POWER/MUTE ボタンを押している間は消音状態になり、POWER/MUTE ボタンを離すと音声が出力されます。POWER/MUTE ボタンで電源 ON/OFF はできません。

PTT HOLD : POWER/MUTE ボタンを押している間は音声が出力され、POWER/MUTE ボタンを離すと消音状態になります。POWER/MUTE ボタンで電源 ON/OFF はできません。

DISABLE : POWER/MUTE ボタンを操作しても消音状態になりません。また、電源 ON/OFF もできません。

マイクロホンの位相を切り換える (AUDIO PHASE) (UTX-B40 のみ)

逆位相で出力されるマイクロホン（付属のラベリアマイクロホンは除く）を接続する際に、位相を切り換えることができます。

NORMAL : 位相を反転しません。付属のラベリアマイクロホンを接続するときは、NORMAL に設定します。

INVERT : 送信機内部で位相を反転させます。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

コンパnderモードを設定する (COMPANDER)

コンパnderの動作モードを設定します。

UWP-D : UWP-D シリーズ同士の組み合わせで使用できる、高音質モードです。

UWP : ソニー UWP シリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。

WL800 : ソニー 800 シリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- コンパnderモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

人感センサーモードを設定する (OCUPNCY SENS)

超音波を使った人感センサーによる、音声への影響を低減するかどうかを設定します。

有効にすると、ハイカットフィルターが働き、ノイズを低減します。

OFF : フィルターなし

LOW : カットオフ周波数 20 kHz

HIGH : カットオフ周波数 15 kHz

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

電池の種類を設定する (BATTERY TYPE)

使用している電池の種類に合わせて設定しておくこと、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1 : アルカリ単 3 形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品の特定のメーカーのアルカリ単 3 形乾電池の特性を基準に残量を表示します。

TYPE2 : 充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。

TYPE3 : リチウム乾電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。
- 単 3 形リチウムイオン充電電池は使用できません。

ディスプレイの表示設定を変更する (DISPLAY MODE)

ボタン操作せずに 30 秒経過したときの有機 EL ディスプレイの表示のしかたを変更する機能です。

AUTO OFF : ボタン操作せずに 30 秒経過すると消灯します。ボタンを押すと点灯します。

DIMMER : ボタン操作せずに 30 秒経過すると減光します。ボタンを押すと点灯します。

ご注意

この機能は拡張モード時のみ表示されます。

表示の明るさを設定する (BRIGHTNESS)

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。

設定できる値は以下のとおりです。

(暗) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 (明)

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

工場出荷設定に戻す (FCT RESET)

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。

SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。+ または - ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、送信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

- この機能は、送信停止モード時のみ使用できます。
- リセット時には、オーディオ入力レベルも工場出荷設定に戻ります。受信機に接続した機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する (VERSION)

送信機のソフトウェアバージョンを表示します。

ご注意

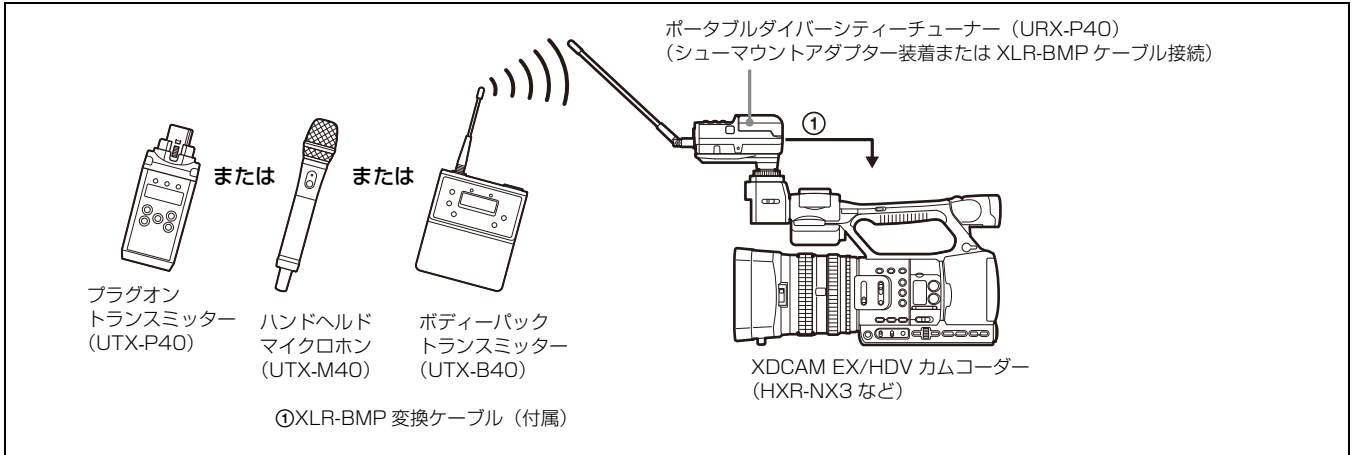
この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

システム構成例

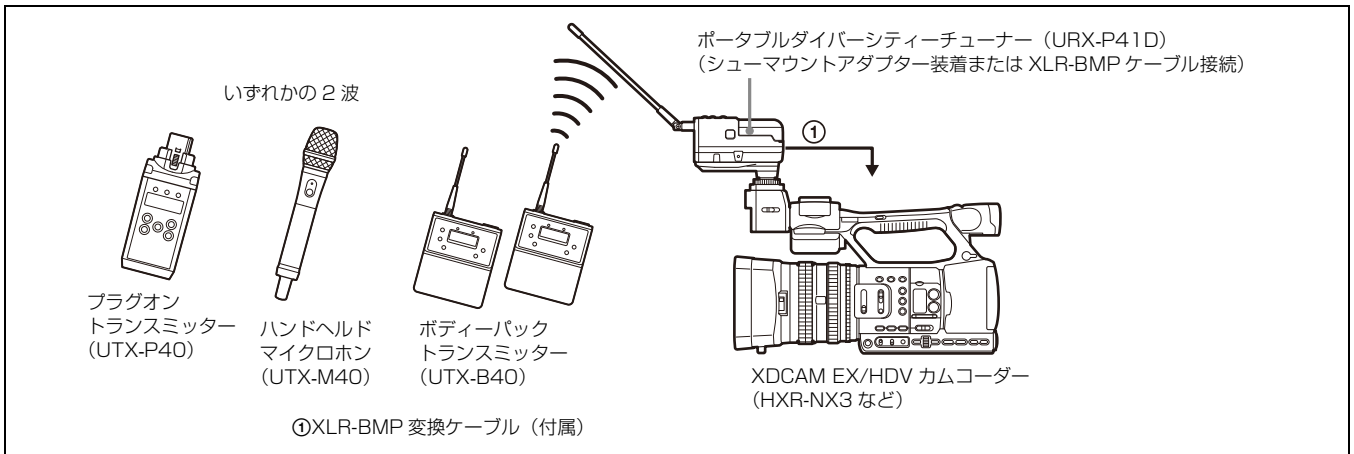
以下のシステム構成は、UWP-D シリーズの使用例です。

ENG (Electronic News Gathering) または EFP (Electronic Field Production) での使用例 (カムコーダーとの組み合わせ)

ポータブルダイバーシティチューナーが URX-P40 の場合



ポータブルダイバーシティチューナーが URX-P41D の場合



エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
EEP ERROR	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
PLL ERROR	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
NO TONE	受信機で設定したコンパンダーモードとは異なるトーン信号の電波を受信したため、オーディオ信号出力がミュートされています。	使用する送信機に合わせて、コンパンダーモードを設定してください（「コンパンダーモードを設定する (COMPANDER)」(31 ページまたは 35 ページ) 参照)。 UWP-D シリーズの送信機 (UTX-B40、UTX-M40 など) を使用する場合は、送信機と受信機のコンパンダーモードを同じ設定にしてください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の⊕と⊖が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください（15ページ）。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕端子、⊖端子、バッテリーケースの端子 ⁴⁾ を綿棒でクリーニングしてください。
	POWER SOURCE が BATT ONLY に設定されているのに、電池が入っていない。 ³⁾	電池を入れるか、POWER SOURCE の設定を変更してください（URX-P40：31ページ、URX-P41D：33ページ）。
	SMAD-P5（別売）とカメラまたは受信機が正しく接続されていない。	SMAD-P5（別売）の取扱説明書を参照し、正しく装着してください。 ³⁾
	受信機とカメラの電源が連動されていない。	SMAD-P5（別売）の取扱説明書を参照し、正しい順番で起動してください。 ³⁾
電源が切れない。	POWER/MUTE ボタンがロックされている。 ⁵⁾	POWER LOCK メニューでロック状態を解除してください（40ページ）。
	POWER/MUTE ボタンでは電源 ON/OFF ができない設定になっている。 ⁶⁾	POWER/MUTE メニューを POWER/MUTE に設定するか、POWER ボタンで電源を切ってください（41ページ）。
電池がすぐになくなる。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
チャンネルの変更ができない。 ¹⁾	送信停止モードに入っていない。	いったん電源を OFF にして、SET ボタンを押しながら電源を ON にし、送信停止モードに変更してください（38ページ）。

症状	原因	対策
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機が電波を送信していないか、送信出力が小さい。	送信機の電源を確認してください。または、送信機と受信機の距離を近づけてください。
	送信機がライン入力に設定されている。 ²⁾	マイク入力に設定してください (40 ページ)。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください (UTX-B40/M40/P40 : 41 ページ、URX-P40 : 31 ページ、URX-P41D : 35 ページ)。
	送信機がミュート状態になっている。 ¹⁾	送信機の POWER/MUTE ボタンを押して、ミュート状態を解除してください。 MUTE SETTING メニュー (UTX-M40 では POWER/MUTE メニュー) が PTT HOLD に設定されています。設定を変更してください (41 ページ)。
	音声出力端子の設定が違っている。 ⁷⁾	OUTPUT ASSIGN メニューで音声の出力端子を適切に設定してください (37 ページ)。
	SMAD-P5 (別売) の Analog/Digital 切り替えスイッチの設定が合っていない。	SMAD-P5 (別売) の取扱説明書を参照し、正しい設定に変更してください。 ³⁾
	MIC INPUT 端子へ接続したマイクロホンの音が出ない場合、外部マイクロホンの設定がオフになっているか、接続されるマイクロホンの種類に適した設定になっていない。 ⁷⁾	MIC SELECT メニューでご使用になるマイクロホンの種類に合った設定にしてください (36 ページ)。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きいです。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください (39 ページ)。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
	送信機がライン入力に設定されている。 ²⁾	マイク入力に設定してください (40 ページ)。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください (UTX-B40/M40/P40 : 41 ページ、URX-P40 : 31 ページ、URX-P41D : 35 ページ)。
	付属のケーブルと接続先の機器が正しく接続されていない。	接続先の機器の取扱説明書を参照し、正しく接続し直してください。
	MIC INPUT 端子へ接続したマイクロホンの音が小さい場合、接続したマイクロホンとのレベルが合っていない。 ⁷⁾	INPUT LEVEL メニューで接続するマイクロホンにあわせてレベルを調整してください (36 ページ)。
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください (39 ページ)。
	送信機の GAIN MODE メニューが 15dB BOOST に設定されている。	音量が過大入力です。音が歪まないように GAIN MODE の設定を変更してください (39 ページ)。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	モノラルミニジャックのヘッドホンを使用している。 ³⁾	ステレオミニジャックのヘッドホンを使用してください。
	受信機の OUTPUT MODE メニューが HIGH GAIN に設定されている。 ⁷⁾	音量が過大出力です。音が歪まないように OUTPUT MODE の設定を NORMAL に変更してください (32 ページ)。
	MIC INPUT 端子へ接続したマイクロホンの音が歪む場合、接続されるマイクロホンの種類に適した設定になっていない。 ⁷⁾	MIC SELECT メニューでご使用になるマイクロホンの種類に合った設定にしてください (36 ページ)。

症状	原因	対策
アッテネーターの設定ができない。	GAIN MODE メニューが AUTO GAIN に設定されている。または、INPUT LEVEL メニューが LINE に設定されている。	GAIN MODE メニューおよび INPUT LEVEL メニューの設定を変更してください (39 ページ)。
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。周波数リストに従って各送信機のチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	2 チャンネル (250 kHz) 以上離れたチャンネルを使用してください。
	ピーピーといったノイズやカムコーダーのアクセスランプと同期してピーブ音がある場合は、カムコーダーのメディアアクセスをしているときや、GPS ブロックの干渉を受けている可能性がある。 ³⁾	受信機側 (URX-P40 : 29 ページ、URX-P41D : 32 ページ) の OUTPUT LEVEL を +12 dB に設定し、カムコーダー側の基準入力レベルを受信機側で上げただけ下げてください。
	カリカリ、キュルキュルといったノイズが発生する場合、カムコーダーの Wi-Fi ブロックからの干渉を受けている可能性がある。 ³⁾	受信機側 (URX-P40 : 29 ページ、URX-P41D : 32 ページ) の OUTPUT LEVEL を +12 dB に設定し、カムコーダー側の基準入力レベルを受信機側で上げただけ下げてください。または、カムコーダー側で Wi-Fi 機能を OFF してください。
	ブーンといったノイズが発生する場合、カムコーダーの LCD バックライトブロックからの干渉を受けている可能性がある。 ³⁾	受信機側 (URX-P40 : 29 ページ、URX-P41D : 32 ページ) の OUTPUT LEVEL を +12 dB に設定し、カムコーダー側の基準入力レベルを受信機側で上げただけ下げてください。または、カムコーダー側でビューファインダーの Brightness を「Mid」、「Low」のどちらかに設定してください。
	カムコーダーからのノイズが受信機に重畳されている可能性がある。 ³⁾	受信機側 (URX-P40 : 29 ページ、URX-P41D : 32 ページ) の OUTPUT LEVEL を +12 dB に設定し、カムコーダー側の基準入力レベルを受信機側で上げただけ下げてください。
	送信機と受信機の距離が近い。	送信機と受信機を離してください。
	受信レベルが高すぎる場合、受信していないチューナー側の影響により、ノイズが発生する可能性がある。	未使用のチューナーは電源を OFF してください。 ⁷⁾
URX-P40/URX-P41D に付属の受信機用 XLR-BMP 変換出力ケーブルで接続した場合よりも、SMAD-P5 (別売) で接続した場合のほうが、ノイズが大きい。	カムコーダーの入力端子ごとの基準入力レベルや基準記録レベルが異なり、適切なオーディオレベル設定となっていない。 ³⁾	カムコーダーの基準入力レベルや基準記録レベル、または受信機の OUTPUT LEVEL を調整し、適切なオーディオレベルに設定してください。
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケーターが点灯している。	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
赤外線送信で、送信機のチャンネルが設定できない。	送信機の赤外線受光部と、受信機の赤外線送信ポートが離れている。 ⁸⁾	送信機の赤外線受光部と受信機の赤外線送信ポートを約 20 cm 以内に近づけてください。
	他の機器で赤外線通信を行ったり、直射日光により妨害を受けている。 ⁸⁾	強い陽射しなどで妨害を受けると、通信距離が短くなる場合があります。送信機と受信機をできるだけ近づけてください。
	SYNC MODE メニューの設定が NFC になっている。 ⁷⁾	SYNC MODE メニューを IR に変更してください (33 ページ)。

症状	原因	対策
NFC 通信で、送受信機のチャンネルが設定できない。	N マーク同士が向かい合っていないか、距離が離れている。または N マーク同士の間に金属などが挟まっている。	N マーク同士を 5 mm 程度を目安に近づけてください。その際、金属などの異物を挟まないようにしてください。
	グリップが開いている。 ⁶⁾	
	SYNC MODE メニューの設定が IR になっている。 ⁷⁾	SYNC MODE メニューを NFC に変更してください (33 ページ)。

- 1) ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) / ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40) / プラグオントランスミッター (UTX-P40) のみ
- 2) ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) / プラグオントランスミッター (UTX-P40) のみ
- 3) ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D) のみ
- 4) ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D) のみ
- 5) ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) / プラグオントランスミッター (UTX-P40) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40) のみ
- 6) ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40) のみ
- 7) ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D) のみ
- 8) ボディーパケットランスミッター (UTX-B40) / ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40) / プラグオントランスミッター (UTX-P40) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D) のみ

使用上のご注意

本機は日本国内専用です。海外ではご使用いただけません。

本機の NFC 通信は、送受信機間の通信専用です。そのほかの機器とは通信できません。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

結露について

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなってからご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

有機 EL パネルについて

一般に、有機 EL パネルは、その特性上、焼き付き、輝度低下などが発生することがあります。これらは故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。

有寿命部品について

電解コンデンサの寿命は約 5 年です。
(常温で 1 日に 8 時間、1 カ月で 25 日間、通常で使用すると想定した場合)
したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。

医療機器に近づけない

本製品（付属品を含む）は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機器に影響を与える恐れがあります。本製品をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。これらの医療機器を使用されている場合、本製品のご使用前に担当医師にご相談ください。

使用・保管場所

- UWP-D シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。

- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-D シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯電話などによる電波障害を防止するために

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

N-Mark は米国およびその他の国における NFC Forum, Inc. の商標または登録商標です。

USB Type-C[®] および USB-C[®] は USB Implementers Forum の登録商標です。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

送信機 (UTX-B40/M40/P40)

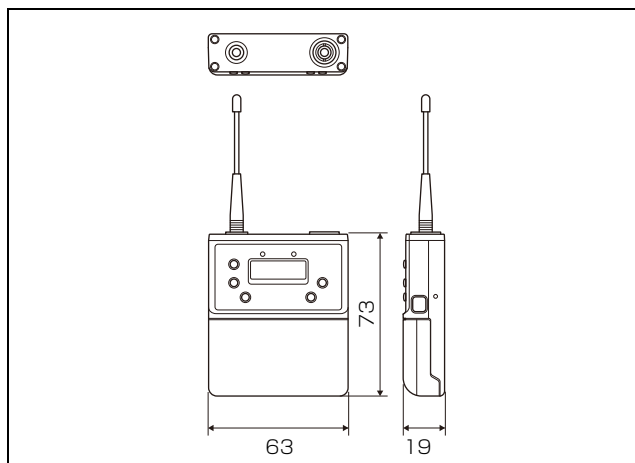
送信機共通

発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー
搬送波周波数	806.125 MHz ~ 809.750 MHz
RF 出力レベル	10 mW/2 mW (選択可)
プリエンファシス	
	50 μ s
基準周波数偏移	± 5 kHz (-60 dBV, 1 kHz 入力時)
ひずみ率	0.9% 未満 (-60 dBV, 1 kHz 入力時)
S/N 比	60 dB (-60 dBV, 1 kHz 入力時)
	102 dB (GAIN MODE を AUTO GAIN に設定時、最大)
	96 dB (GAIN MODE を NORMAL に設定時、最大)
音声遅延	約 0.35 ミリ秒
トーン信号周波数	
	コンパンダーモードを UWP-D に設定時： 32.382 kHz
	コンパンダーモードを UWP に設定時： 32 kHz
	コンパンダーモードを WL800 に設定時： 32.768 kHz
電源電圧	DC 3.0 V (アルカリ乾電池 単 3 形 (LR6) 2 本)
	DC 5.0 V (USB 端子より供給)
NFC 機能	あり
IR SYNC 機能	あり
USB ポート	USB Type-C
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C
許容保存温度	-20 $^{\circ}$ C ~ +55 $^{\circ}$ C

ボディパックトランスミッター (UTX-B40)

アンテナ	波長 1/4 λ ワイヤアンテナ
音声入力端子	ϕ 3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック
基準音声入力レベル	-60 dBV (MIC 入力、GAIN MODE を NORMAL に設定時、アッテネーター 0 dB) +4 dBu (LINE 入力)
周波数特性	40 Hz ~ 15 kHz (Typical)
アッテネーター	0 dB ~ 27 dB (3 dB ステップ)
インジケーター	POWER、AUDIO/MUTE
電池持続時間	約 10 時間 (アルカリ乾電池 単 3 形 (LR6) 2 本使用、10 mW 出力、25 $^{\circ}$ C、DISPLAY MODE を AUTO OFF に設定時)

外形図



寸法	63 \times 73 \times 19 mm (幅/高さ/奥行き) (アンテナ含まず)
質量	約 83 g (乾電池含まず)

ラベリアマイクロホン (ECM-V1BMP)

型式	エレクトレットコンデンサー型
周波数特性	40 Hz ~ 20,000 Hz
指向特性	無指向性
正面感度	-43.0 dB \pm 3 dB (0 dB = 1 V/Pa, at 1 kHz)
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C
許容保存温度	-20 $^{\circ}$ C ~ +55 $^{\circ}$ C
ケーブル長	外径 2.3 mm、2 芯シールドケーブル 1.2 m
外形寸法	ϕ 6.8 \times 19.5 mm (ケーブルおよびコネクタを除く)
質量	約 16.2 g

ハンドヘルドマイクロホン (UTX-M40)

マイクロホンユニット

ダイナミック

指向特性 単一指向

アンテナ 波長 $1/4\lambda$ ワイヤアンテナ

基準音声入力レベル

- 55 dBV

(GAIN MODE を NORMAL に設定時、アッテネーター 0 dB)

最大音声入力レベル

151 dB SPL (アッテネーター 21 dB、
付属マイクロホンユニット使用時)

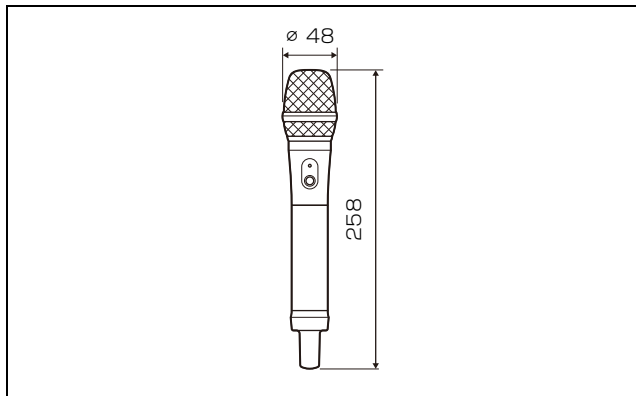
周波数特性 70 Hz ~ 15 kHz (Typical)

アッテネーター 0 dB ~ 21 dB (3 dB ステップ)

インジケータ POWER/MUTE

電池持続時間 約 10 時間 (アルカリ乾電池 単 3 形
(LR6) 2 本使用、10 mW 出力、
25 °C、DISPLAY MODE を AUTO
OFF に設定時)

外形図



寸法 $\phi 48 \times 258$ mm (直径/長さ)

質量 約 255 g (乾電池含まず)

プラグオントランスミッター (UTX-P40)

基準音声入力レベル

- 60 dBV (MIC 入力、GAIN MODE を
NORMAL に設定時、アッテネーター
0 dB)

周波数特性 50 Hz ~ 15 kHz (Typical)

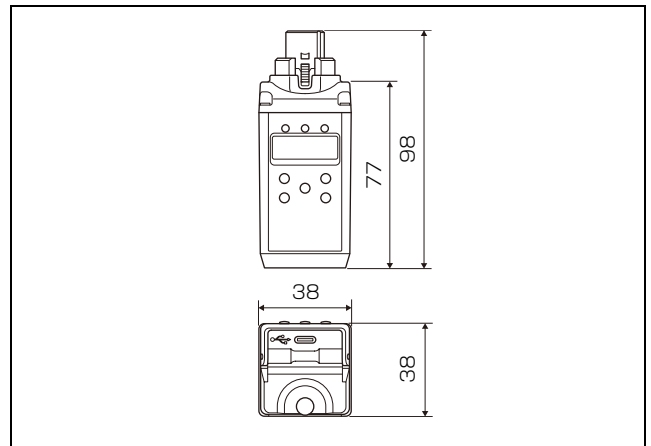
アッテネーター 0 dB ~ 48 dB (3 dB ステップ)

音声入力端子 XLR-3-11 C タイプ (凹)

インジケータ POWER、AUDIO/MUTE、+48V

電池持続時間 (アルカリ乾電池 単 3 形 (LR6) 2 本使用、
10 mW 出力、25 °C、DISPLAY
MODE を AUTO OFF に設定時)
+48V OFF 時: 約 10 時間
+48V ON、ECM-673 接続時: 約 7 時間

外形図



寸法 $38 \times 98 \times 38$ mm (幅/高さ/奥行き)
(音声入力端子含む)

質量 約 139 g (乾電池含まず)

受信機 (URX-P40/P41D)

受信機共通

アンテナ 波長 $1/4\lambda$ ワイヤアンテナ (角度調節
可)

オーディオ出力レベル可変範囲

- 12 dB ~ + 12 dB (3 dB ステップ)

音声出力端子 $\phi 3.5$ mm ロック式 3 極ミニジャック、
外部接続用端子

ヘッドホン出力レベル

最大 10 mW (16-ohm)

ヘッドホン出力端子

$\phi 3.5$ mm ミニジャック

局部発振 水晶制御 PLL シンセサイザー

受信周波数 806.125 MHz ~ 809.750 MHz

S/N 比 60 dB (1 kHz Sine 波、5 kHz 変調)

96 dB (1 kHz Sine 波、最大)

音声遅延 約 0.35 ミリ秒 (アナログ出力)

約 0.24 ミリ秒 (デジタル出力)

ディエンファシス

50 μ s

基準周波数偏移 ± 5 kHz

周波数特性 40 Hz ~ 15 kHz (Typical)

ひずみ率 0.9% 未満 (1 kHz Sine 波、5 kHz 変調)

トーン信号周波数

コンパウンダーモードを UWP-D に設定時:
32.382 kHz

コンパウンダーモードを UWP に設定時:
32 kHz

コンパウンダーモードを WL800 に設定時:
32.768 kHz

許容動作温度 0 °C ~ 50 °C

許容保存温度 - 20 °C ~ + 55 °C

USB ポート USB Type-C

電源電圧 DC 3.0 V (単 3 形アルカリ乾電池 2 本)
DC 5.0 V (USB 端子より供給)

ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P40)

音声出力レベル - 60 dBV (φ3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック、アナログ出力、オーディオ出力レベル 0 dB)
- 20 dBFS (外部接続用端子、デジタル出力、オーディオ出力レベル 0 dB)
- 50 dBV (外部接続用端子、アナログ出力、オーディオ出力レベル 0 dB)

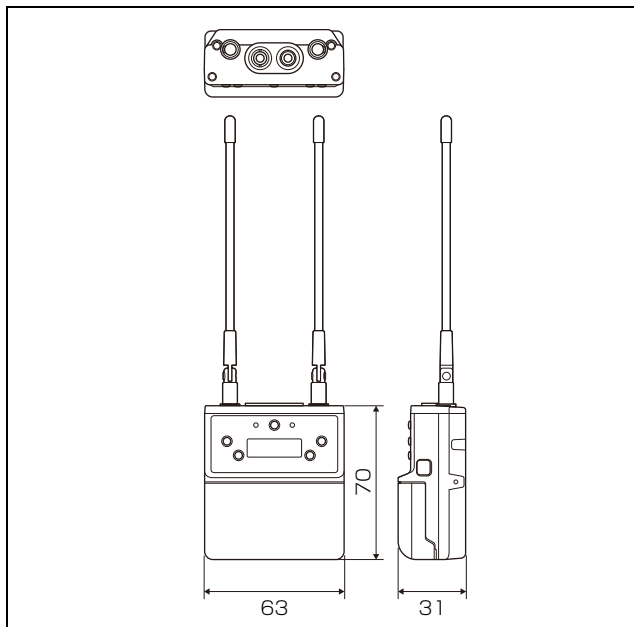
受信方式 トゥルードイバーシティー方式

インジケータ POWER、RF

NFC 機能 あり

電池持続時間 約 6 時間 (アルカリ乾電池 単 3 形 (LR6)、25 °C、DISPLAY MODE を AUTO OFF に設定時)

外形図



寸法 63×70×31 mm (幅/高さ/奥行き)
(アンテナ含まず)

質量 約 131 g (乾電池含まず)

ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P41D)

音声出力レベル - 60 dBV (φ3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック、アナログ出力、オーディオ出力レベル 0 dB、OUTPUT MODE を NORMAL に設定時)
- 20 dBFS (外部接続用端子、デジタル出力、オーディオ出力レベル 0 dB)
- 50 dBV (外部接続用端子、アナログ出力、オーディオ出力レベル 0 dB)

音声入力レベル - 50 dBV (- 60 dBV 出力時、入力周波数 1 kHz、INPUT LEVEL を 0 dB に設定時)

音声入力端子 φ3.5 mm ロック式 3 極ミニジャック
受信方式 スペースダイバーシティー方式 (1 チャンネル動作時はトゥルードイバーシティー方式)

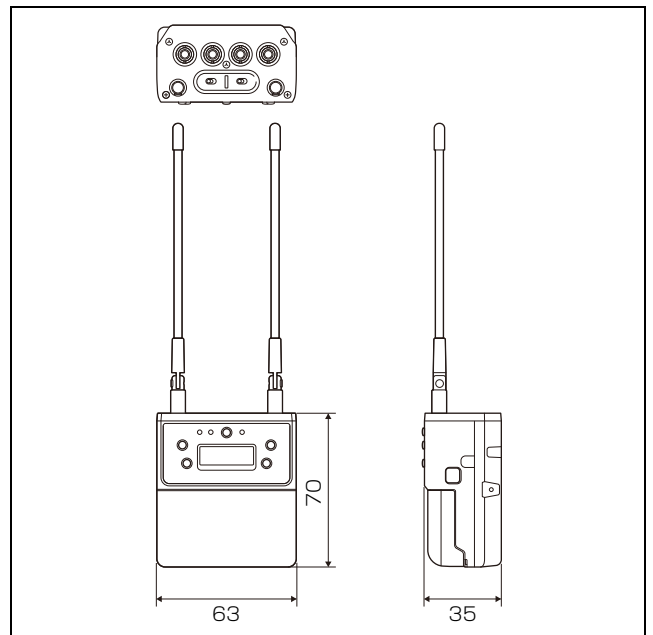
インジケータ POWER、RF 1/2

NFC 機能 あり

IR SYNC 機能 あり

電池持続時間 約 4 時間 30 分 (アルカリ乾電池 単 3 形 (LR6)、25 °C、DISPLAY MODE を AUTO OFF に設定時)

外形図



寸法 63×70×35 mm (幅/高さ/奥行き)
(アンテナ含まず)

質量 約 159 g (乾電池含まず)

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1